



真の強さを学ぶ。

新潟大学

NIIGATA UNIVERSITY



新潟大学 キャンパスマスタープラン 2022

NIIGATA UNIV CAMPUS MASTER PLAN 2022

Ver. 2022.4.1

新潟大学 キャンパスマスタープラン 2022

NIIGATA UNIV CAMPUS MASTER PLAN 2022

新潟大学キャンパスマスタープラン2022に寄せて



国立大学法人
新潟大学長

牛木 辰男

新潟大学は、旧制新潟医科大学と旧制新潟高校が母体となり、三つの師範学校、長岡高等工業学校、新潟県立農林学校などが集まって1949年5月に新制国立大学として発足しました。その後、「自律と創生」を全学の理念とし、教育、研究、社会貢献という見地から、地域のみならず世界の発展に資する知の拠点としての役割を果たしてきています。

新潟大学は、本州の日本海側に位置し、複数の領事館を有する地方中核・政令指定都市である新潟市にメインキャンパスをもつ大規模総合大学として、日本海対岸のアジアを基点に世界に開かれた「知のゲートウェイ」の役割を明確にしながら、これからも益々、教育、研究、社会貢献を通じた知の交流を深めていきます。

こうした新潟大学の役割を明確にする目的で、2021年の初頭に、向後10年を見据えた「新潟大学将来ビジョン2030」を策定しました。その中で、新潟大学は、医療・健康・福祉分野に留まらず、21世紀を生きるわれわれの「生命」、「人生」、「生き方」、「社会の在り方」、「環境との関わり」と、それらの土台となる「地球」や「自然」についての新たな価値と意味を生み出すための革新を「ライフ・イノベーション」と新たに定義し、本学が掲げる「自律と創生」の理念のもとに、全学の知を結集して、新潟大学が未来のライフ・イノベーションのフロントランナーとなることをミッションに掲げました。

このキャンパスマスタープランは、新潟大学のこうした方向性を支える大学キャンパスの整備について、全学の教職員の協働のもとに策定したものです。内容は具体的な事項から夢に近いものまで、多岐にわたり盛り込まれていますが、これをもとに、未来を見据えたキャンパスの施設整備が進むことを心から願っています。

新潟大学 キャンパスマスタープラン 2022

NIIGATA UNIV CAMPUS MASTER PLAN 2022

新潟大学は、高志（こし）の大地に育まれた敬虔質実の伝統と世界に開かれた海港都市の進取の精神に基づいて、自律と創生を全学の理念とし、教育と研究及び社会貢献を通じて、世界の平和と発展に寄与することを全学の目的とする。

これらの理念・目標の達成に向け、教育研究環境に関する現状の把握・分析や、社会的要因、財政状況の変化等も踏まえ、長期的な視点、中期的な視点に立ち、その整備手法について検討するものとする。

01 キャンパスマスタープランについて

- 01-1 目的・位置づけ・構成……………4

02 キャンパスの現状と課題

- 02-1 キャンパスの概要……………6
- 02-2 五十嵐キャンパス……………8
- 02-3 旭町キャンパス……………20
- 02-4 西大畑町キャンパス……………31
- 02-5 長岡キャンパス……………32
- 02-6 施設マネジメント……………33

03 キャンパス整備の方針

- 03-1 キャンパス整備の基本方針……………38
- 03-2 キャンパスの整備・活用方針……………39

04 キャンパスの整備計画

- 04-1 キャンパスマスタープラン2022のポイント……………42
- 04-2 五十嵐キャンパス……………46
- 04-3 旭町キャンパス……………55
- 04-4 西大畑町キャンパス・長岡キャンパス……………64
- 04-5 キャンパスデザイン……………67
- 04-6 施設マネジメント……………74
- 参考資料……………77

01 キャンパスマスタープラン について

NIIGATA UNIV CAMPUS MASTER PLAN 2022

01-1 目的・位置づけ・構成

01-1

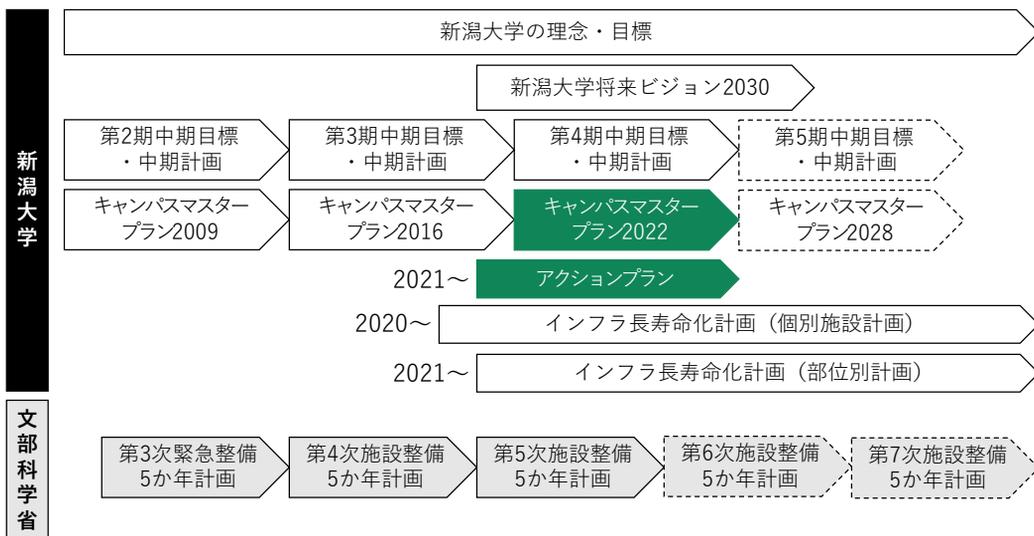
目的・位置づけ・構成

1. 目的

キャンパスマスタープランは、大学がその運営理念に基づき合意形成したキャンパス環境の基本的な計画であり、継続的に実施される施設や環境整備及び施設の管理・運営の拠り所となる指針として、長期的視野を見据えた中期的整備目標を達成するために策定するものである。

2. 位置づけ

キャンパスマスタープラン2022は、本学の理念・目標に基づき、新潟大学将来ビジョン2030を踏まえ、第四期中期目標・中期計画期間（2022年～2027年）を実行するため、長期的視点に立った計画的な整備を行うための目標である。本改定においては、キャンパスマスタープラン2016の基本方針の継承を基本とし、これまでの検証を行い、大学を取り巻く状況の変化に対応することとする。



キャンパスマスタープランの位置づけ

3. 構成

基本方針に基づき整備方針、活用方針及び部門別計画を策定する。また、キャンパスマスタープランを着実に実現するため、アクションプランとして具体的な整備計画及び活用計画を策定し、『新潟大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画）』等と連動し、施設整備、維持管理及び施設マネジメント等を一体的に推進する。

02 キャンパスの 現状と課題

NIIGATA UNIV CAMPUS MASTER PLAN 2022

- 02-1 キャンパスの概要
- 02-2 五十嵐キャンパス
- 02-3 旭町キャンパス
- 02-4 西大畑町キャンパス
- 02-5 長岡キャンパス
- 02-6 施設マネジメント

02-1

キャンパスの現状と課題

キャンパスの概要

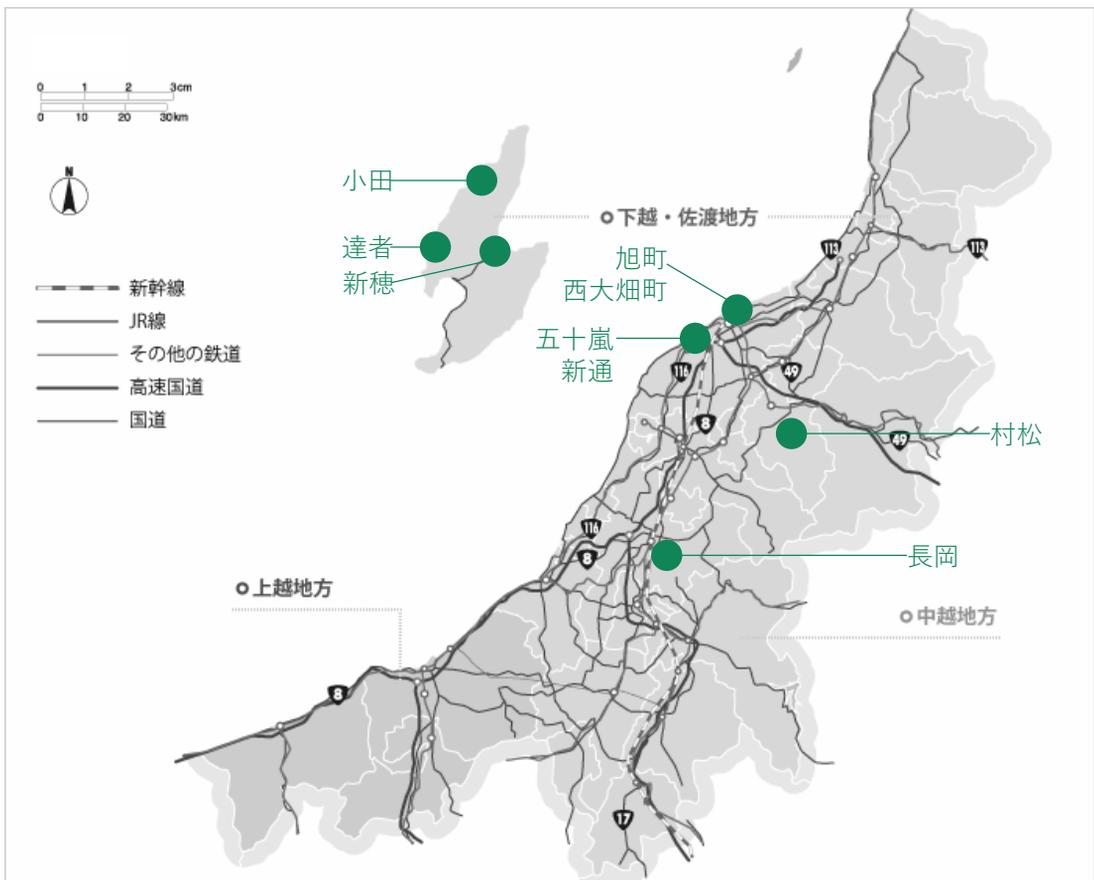
1. 位置

本学の主要キャンパスである五十嵐キャンパスは、JR新潟駅より南西に約15 km離れた砂丘地に位置しており、敷地は海岸線に近く、砂防林が点在する北斜面の丘陵地であり、北側は農地、他は住宅地である。

旭町・西大畑町キャンパスは、JR新潟駅より西に約4 km離れた海岸線近くの高台砂丘地に位置しており、古くからの住宅地や商業地と隣接する。

長岡キャンパスは、JR長岡駅より東に約1.5 kmの位置にあり、敷地の西側は市立の図書館・体育館・公園等と隣接し、周囲は住宅地である。

その他、農学部の附属フィールド科学教育研究センターとして村松地区（五泉市石曾根）や新通地区（新潟市西区）、佐渡自然共生科学センターとして臨海実験所のある達者地区（佐渡市達者）や演習林のある小田地区（佐渡市小田）、朱鷺・自然再生学研究施設のある新穂地区（佐渡市新穂）があり、多彩なフィールド科学分野の実習等に利用されている。



県内案内図

02-1

キャンパスの現状と課題

キャンパスの概要

2. 概要

新潟大学は主要2キャンパス（五十嵐、旭町）において、敷地面積 754,306㎡、建物延床面積 439,759㎡を保有し、そこで活動する構成員（学生、教職員）は計 13,537人にのぼっている（2021年度）。キャンパス別には、五十嵐キャンパスの敷地規模が約588haと最も大きく、建築物の規模、構成員とも最大である。

(R3.5.1現在)

	五十嵐キャンパス	旭町キャンパス	西大畑町キャンパス	長岡キャンパス
敷地面積	587,734 ㎡	166,572 ㎡	62,084 ㎡	47,215 ㎡
建築面積	81,436 ㎡	52,810 ㎡	11,004 ㎡	6,584 ㎡
延床面積	226,325 ㎡	213,434 ㎡	21,738 ㎡	10,587 ㎡
棟数	142棟	66棟	19棟	9棟
建ぺい率	14 %	32 %	18 %	14 %
容積率	39 %	128 %	35 %	22 %
用途地域	第1種中高層住居 専用地域 第2種中高層住居 専用地域 市街化調整区域	第2種中高層住居 専用地域	第1種低層住居 専用地域	第1種中高層住居 専用地域 第1種住居地域
構成員数	学生等	9,046 人	2,322 人	888 人
	教職員	889 人	1,280 人	81 人
学部・研究科等	人文学部 教育学部 法学部 経済科学部 理学部 工学部 農学部 創生学部 教育実践学研究科 現代社会文化研究科 自然科学研究科 養護教諭特別別科 災害・復興科学研究科	医学部医学科 医学部保健学科 歯学部 保健学研究科 医歯学総合研究科 脳研究所 医歯学総合病院	附属新潟小学校 附属新潟中学校 附属特別支援学校	附属幼稚園 附属長岡小学校 附属長岡中学校

主要キャンパス概要

キャンパスマスタープラン2022は主要キャンパスを対象とし、それ以外のフィールド実習等を主としたキャンパスについては、キャンパスマスタープランを踏まえた整備・運用を行う。

02-2

キャンパスの現状と課題

五十嵐キャンパス

1. 土地利用

〈現状〉

- ・ キャンパスの中心であるアカデミックゾーンとキャンパスモールにおいて、各学部・分野の特色が外部から分かりづらく、有機的な繋がりが弱く感じられる。
- ・ 未利用の土地や管理が行き届いていない緑地などがある。
- ・ 地域・社会との連携等の観点から、開かれたキャンパスを実現することが求められているが、外部の人が気軽に利用できるような仕組みや場所が少ない。



五十嵐キャンパス エリアマップ

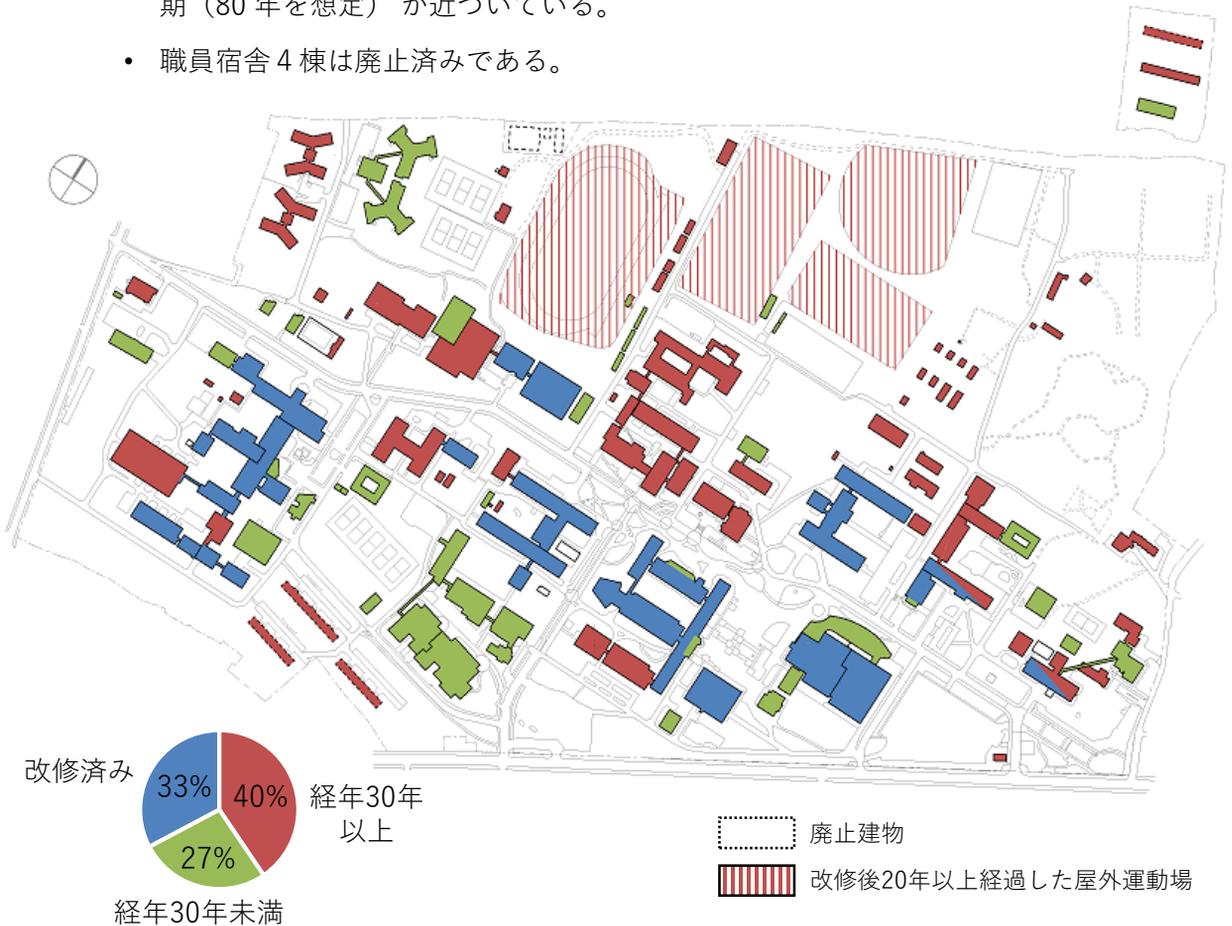
〈課題〉

- ・ キャンパス全体のイノベーションコモンズ化
- ・ キャンパスモールを、教育研究をつなげる動線とする戦略的な再定義
- ・ 周辺地域との連携も意識した未活用土地や緑地の活用
- ・ 地域に開かれたキャンパスとして必要なルールの設定や整備

2. 施設の整備状況（経年数）

〈現状〉

- 五十嵐キャンパスの建物全体の約3割（約7万㎡）が「改修済み」であり、職員宿舎を除くすべての建物の耐震対策は完了しているが、約4割（約9万㎡）は「経年30年以上で未改修」の老朽施設である。
- 屋外運動場は表層改修後27年が経過しており、その他の屋外運動施設においても老朽化が進行している。
- 昭和43年の移転統合によるキャンパス設置から53年が経過し、建物の改築時期（80年を想定）が近づいている。
- 職員宿舎4棟は廃止済みである。



五十嵐キャンパス 経年別施設配置図

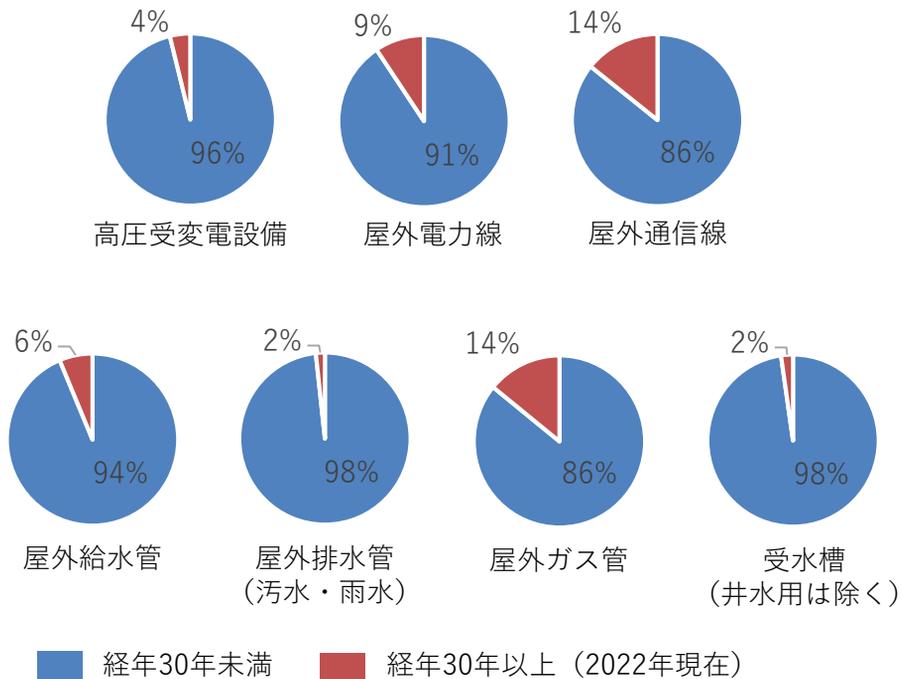
〈課題〉

- 『新潟大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画）』等に基づいた、施設・設備の経年劣化や機能低下に応じた効果的・効率的な改修整備
- 改築を踏まえた長期整備計画の検討

3. ライフライン

〈現状〉

- 老朽化した電力・給排水・ガス等のインフラ設備の耐震化、必要最低限の活動が行えるための自家発電設備の新設等、計画的なインフラ整備を行っている。
- 経年30年以上が全体の7%を占めており、老朽改善を進めている。



※ 屋外通信線屋・外ガス管の老朽改善については、建物改修等に併せて実施する

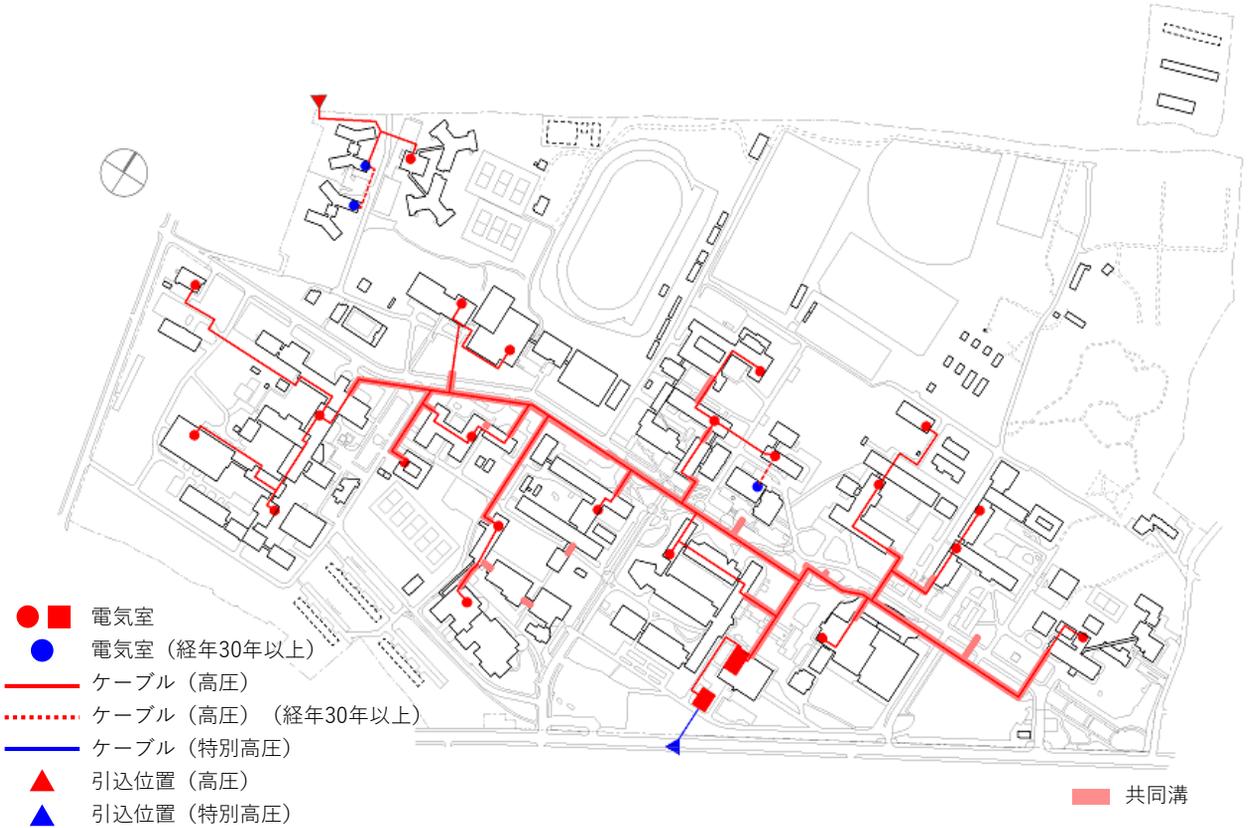
〈課題〉

- 『新潟大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画）』等に基づいた、施設・設備の経年劣化や機能低下に応じた効果的・効率的な改修整備
- 災害時にも重要な教育・研究を継続できるバックアップ機能や機能回復の迅速化の実現

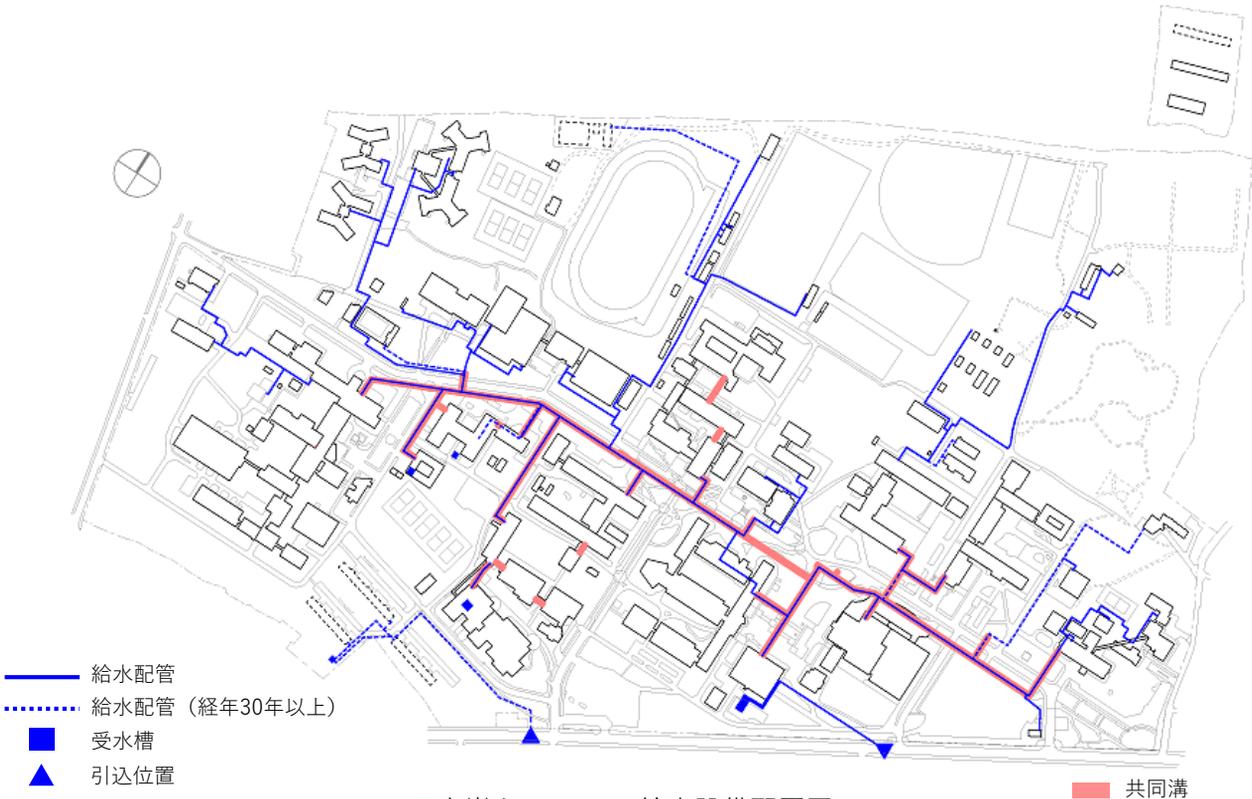
02-2

キャンパスの現状と課題

五十嵐キャンパス



五十嵐キャンパス 電気設備配置図



五十嵐キャンパス 給水設備配置図

02-2

キャンパスの現状と課題

五十嵐キャンパス



五十嵐キャンパス 排水設備配置図



五十嵐キャンパス ガス設備配置図

4. 交通環境

〈現状〉

- ・ 歩道と車道が交錯する箇所や、車両一方通行での逆走が見受けられなど危険な箇所が存在している。
- ・ キャンパスモールの歩道上に駐輪場が配置され歩道が狭い箇所や、歩道の無い箇所があり、歩行者の安全が確保されていない。
- ・ 道路脇や広場への違法駐車・駐輪が見られるなど、駐車場・駐輪場が適切に配置されていない。



五十嵐キャンパス 交通環境配置図

02-2 キャンパスの現状と課題 五十嵐キャンパス



a) 歩道・車道が交錯し交通量も多い
(西門周辺)



b) 車両一方通行での逆走が見られる
(キャンパスモール)



c) 歩道上に駐輪場が配置され
歩道が狭い (キャンパスモール)



d) 歩道が途中でなくなる
(農学部前道路)



e) 歩道が狭い
(旧職員宿舎前道路)



f) 歩道がない
(情報基盤センター前道路)



g) 違法駐車 (理学部道路脇)



h) 広場への違法駐車
(自然科学系物質・生産棟前)

〈課題〉

- 歩行者と車を明確に分離するなど、主要な軸線における歩行者の安全確保
- 違法駐車を無くし利便性も考慮した駐車・駐輪場の再配置や、サイン等の工夫
- 可能な限り歩行者優先の計画を推進するため、現状の車両動線を踏まえた歩道の整備や駐輪場の位置等の検討

5. 屋外環境

〈現状〉

- キャンパスマスタープラン2016において、屋外アメニティスペースの拡充整備を目指していたが、多くが実現していない。
- 学生広場や各建物玄関前に広場が配置されているが、必要とされる広場の整備や維持管理が実現しておらず、十分に活用されていない。
- キャンパスモール・パブリックスペース・建物の在り方に統一感がなく、学生・教職員が活動する様子が分からない閉鎖的な印象となっている。
- 人通りが多い場所に対して駐輪場や設備機器が露出しているなど、景観への配慮がされていない。
- キャンパス移転前からある樹木や、農道の形跡など、歴史的経緯のある自然景観が存在している。
- 『サインデザインマニュアル』に基づいたサインの整備を行っている。



02-2

キャンパスの現状と課題 五十嵐キャンパス



a) 人が多く集まるが広場として活用されていない (西門周辺)



b) 座面の痛んだベンチ (人文社会学系棟前広場)



c) 駐輪場がキャンパスモール上に設置されている



d) 舗装等のデザインに統一感がない (西門周辺)



e) 空調室外機が目立つ (教育学系D棟)



f) 空調室外機が目立つ (自然科学系物質・生産棟)



g) キャンパス移転前の農道の形跡 (旧職員宿舎前道路)



h) 並木 (工学部前)

〈課題〉

- 健康・衛生・防犯面に配慮し、スペースだけでなく植栽やアメニティも含めたパブリックスペースの計画
- キャンパス全体がつながりを持ち、地域交流も推進する屋外環境整備 (特に西門周辺に動線を考慮した広場の再配置など)
- 歴史的景観を活かし、統一感あるキャンパス景観を形成するためのデザインガイドラインの策定
- ダイバーシティ (多様性) に配慮したサイン計画の見直し

6. ユニバーサルデザイン

〈現状〉

- 建物内のバリアフリー（自動ドア、多目的トイレ、車椅子対応エレベーター等）は、建物大規模改修に合わせ整備されているが、大規模改修がこれからの施設や小規模の施設については、未整備となっている。
- 整備済みの多目的トイレにおいても、大半が1階のみに整備されており、オストメイトにも対応していない。
- 屋外について、歩道の点字誘導ブロックが無い箇所がある。



点字誘導ブロックの無い歩道



点字誘導ブロックの無い建物入口



五十嵐キャンパス ユニバーサルマップ

〈課題〉

- 大規模改修に合わせた建物内のバリアフリー対策整備
- 多目的トイレの各階への設置やオストメイトの設置の検討・整備
- 歩道の整備や点字誘導ブロックの設置等の整備
- ダイバーシティ（多様性）への配慮

7. 防災

〈現状〉

- ・ 過去の大規模災害等を踏まえて作成された「新潟大学危機管理計画」「新潟大学事業継続計画（BCP）」に基づき、災害発生時等の危機対応を組織的に整備するとともに、災害対策に必要な設備の整備や災害対応訓練などを実施している。
- ・ 大規模災害発生等の予期せぬ事態に備え、本学の危機管理機能の強化と充実を図るため、災害対策本部や打合せ室、休憩室、備蓄倉庫等を備えた、危機管理センター（鉄骨造2階建て、417㎡）の整備を行った。また、今後発生し得る大規模災害を想定し、重要なインフラである設備として、災害用トイレ、井戸及び自家発電設備を整備した。
- ・ 学内利用者の安全確保のため、防災に関する海拔表示板を設置した。



危機管理センター



災害用トイレの設置状況



海拔表示板の設置

〈課題〉

- ・ 今後の予期せぬ大規模災害発生等事態に備え、災害時にも重要な教育・研究を継続できるバックアップ機能や機能回復の迅速化の実現
- ・ 避難所機能（立地や設備含む）としての充実化
- ・ 感染症対策・災害（雪害等）を踏まえた整備

8. 防犯

〈現状〉

- 本学キャンパスのセキュリティ対策は、これまで部局毎にセキュリティ対策が講じられている一方で、本学が「開かれたキャンパス」でもあることから、敷地境界のフェンス等の囲障の設置、外灯の設置、警備会社の夜間常駐等を行っている。
- 敷地周囲の市道または民地と接している箇所は植栽等の緩衝帯を要しており、敷地境界から建物及び建物間隔を広くとっている。
- 五十嵐キャンパス内の駐車場には、以前から入構を許可されていない学生や学外者による違法駐車が多数あり、緊急時の通行や防犯面等の観点から、北門、西門、旧正門にゲートを設置した。
- 外部からの侵入者に対する学内利用者の安全のため、キャンパス内の防犯対策や防犯カメラ・敷地境界フェンス、外灯の検討を行ったうえで、外灯、防犯カメラ及び注意喚起の看板の設置を行った。



構内入口にゲートを整備（旧正門）



周辺環境に配慮した外灯の整備



（昼間）



（夜間）

防犯カメラ設置による犯罪抑止と不法行為防止

〈課題〉

- キャンパス内での不審者等の犯罪防止、交通事故の防止、日常の安全性確保のための防犯対策など、物理的なセキュリティレベルに応じたセキュリティの整備

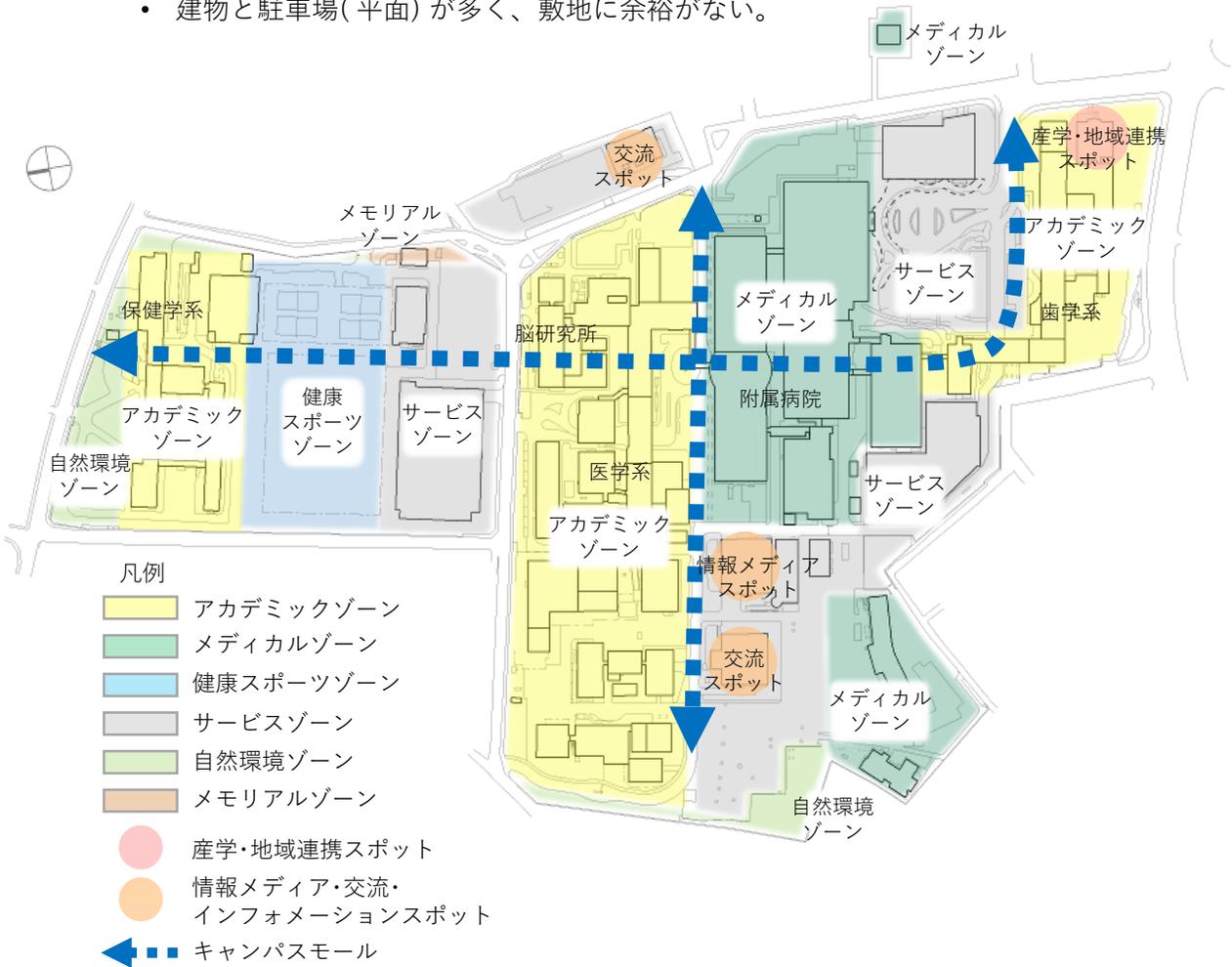
02-3

旭町キャンパス

1. 土地利用

〈現状〉

- ・ アカデミックゾーンが医学科、歯学部、保健学科の配置により分断されており各学部・分野間の有機的なつながりが弱く感じられる。
- ・ 教育研究の拠点や歴史的景観などを大学の魅力として発信できていない。
- ・ 建物と駐車場(平面)が多く、敷地に余裕がない。



旭町キャンパス エリアマップ

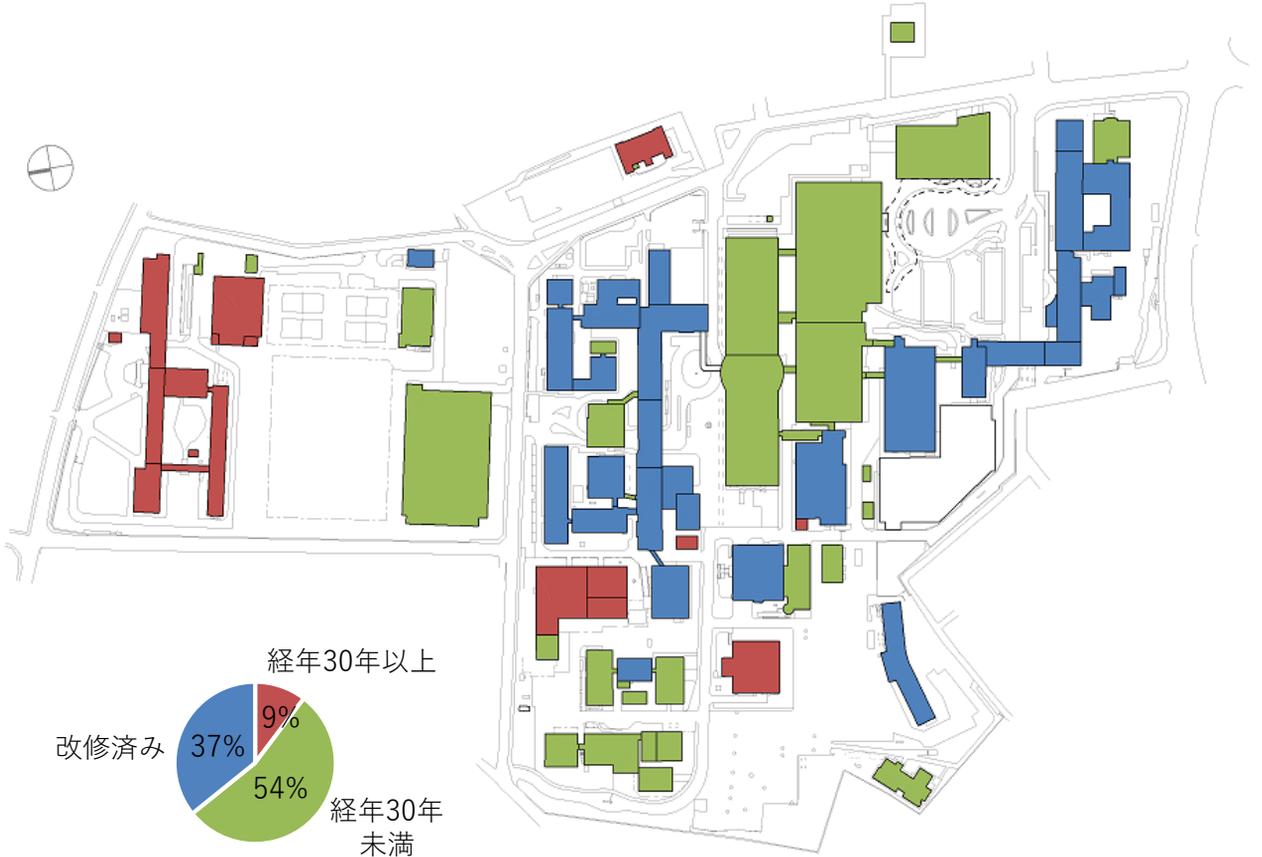
〈課題〉

- ・ キャンパス全体のイノベーションコモンズ化
- ・ キャンパスモールを、教育研究をつなげる動線とする戦略的な再定義
- ・ 附属病院の再開発とも連動した、建て詰まりの解消に向けた土地利用の考え方の整理
- ・ 地域に開かれたキャンパスとして必要なルールの設定や整備

2. 施設の整備状況（経年数）

〈現状〉

- すべての建物の耐震対策が完了しており、「経年30年以上で未改修・改修後経年30年以上」の老朽施設の割合は約1割（約2万㎡）と、他のキャンパスと比較すると割合は低い。



旭町キャンパス 経年別施設配置図

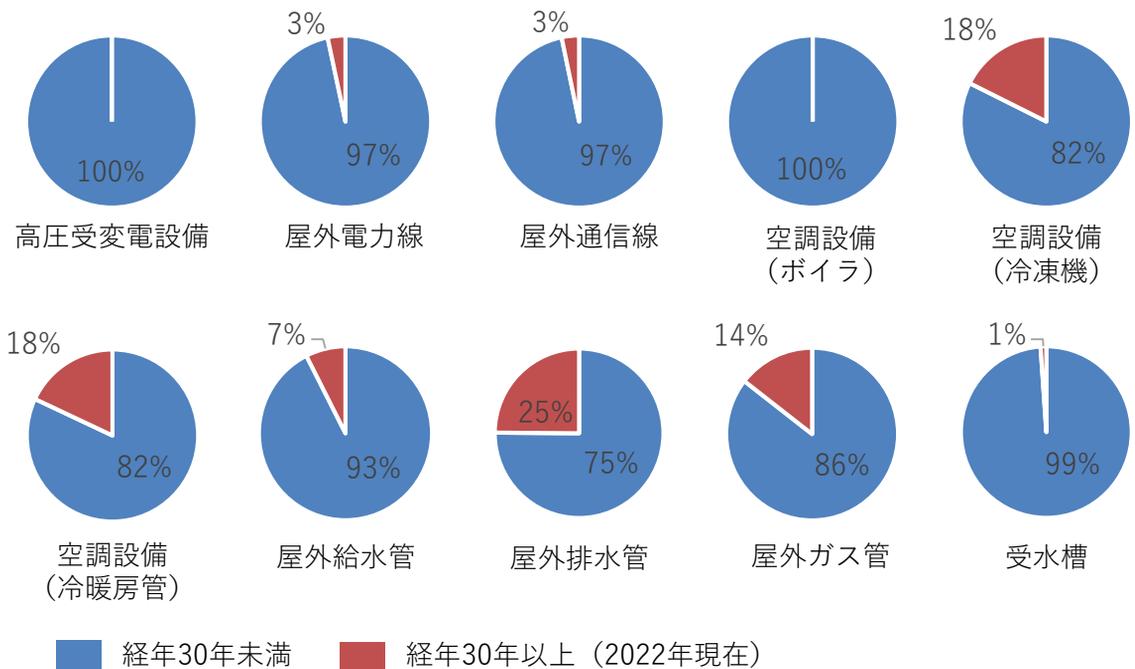
〈課題〉

- 『新潟大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画）』等に基づいた、施設・設備の経年劣化や機能低下に応じた効果的・効率的な改修整備
- 改築を踏まえた長期整備計画の検討

3. ライフライン

〈現状〉

- 老朽化した電力・給排水・ガス等のインフラ設備の耐震化、必要最低限の活動が行えるための無停電電源設備の更新・自家発電設備の新設等、計画的なインフラ整備を行っている。
- 経年30年以上が全体の9%を占めており、老朽改善を進めている。



※ 経年30年以上の空調設備（冷凍機・冷暖房配管）については、2022年度に改修工事を行う予定である

※ 屋外排水管・屋外ガス管の老朽改善については、病院再開発に併せて実施する

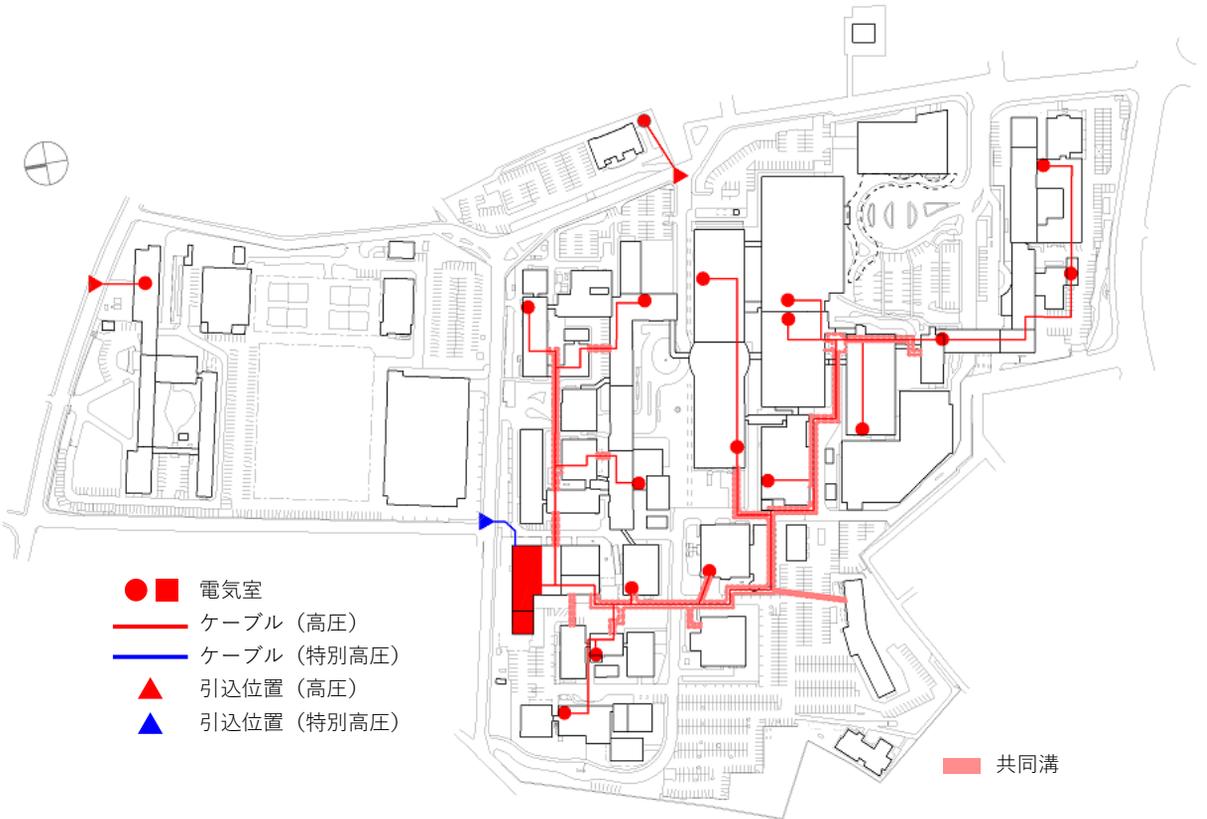
〈課題〉

- 『新潟大学インフラ長寿命化計画』に基づいた、施設・設備の経年劣化や機能低下に応じた効果的・効率的な改修整備
- 災害時にも重要な教育・研究を継続できるバックアップ機能や機能回復の迅速化の実現

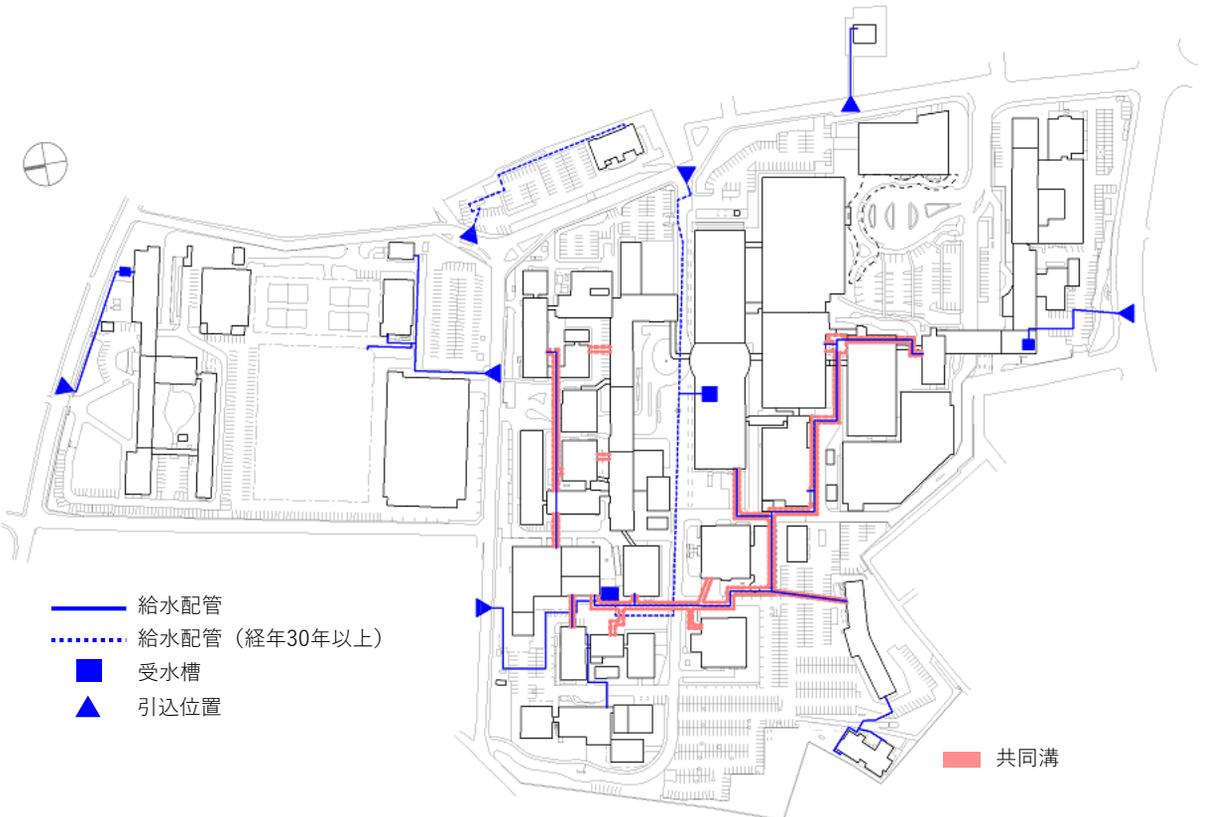
02-3

キャンパスの現状と課題

旭町キャンパス



旭町キャンパス 電気設備配置図

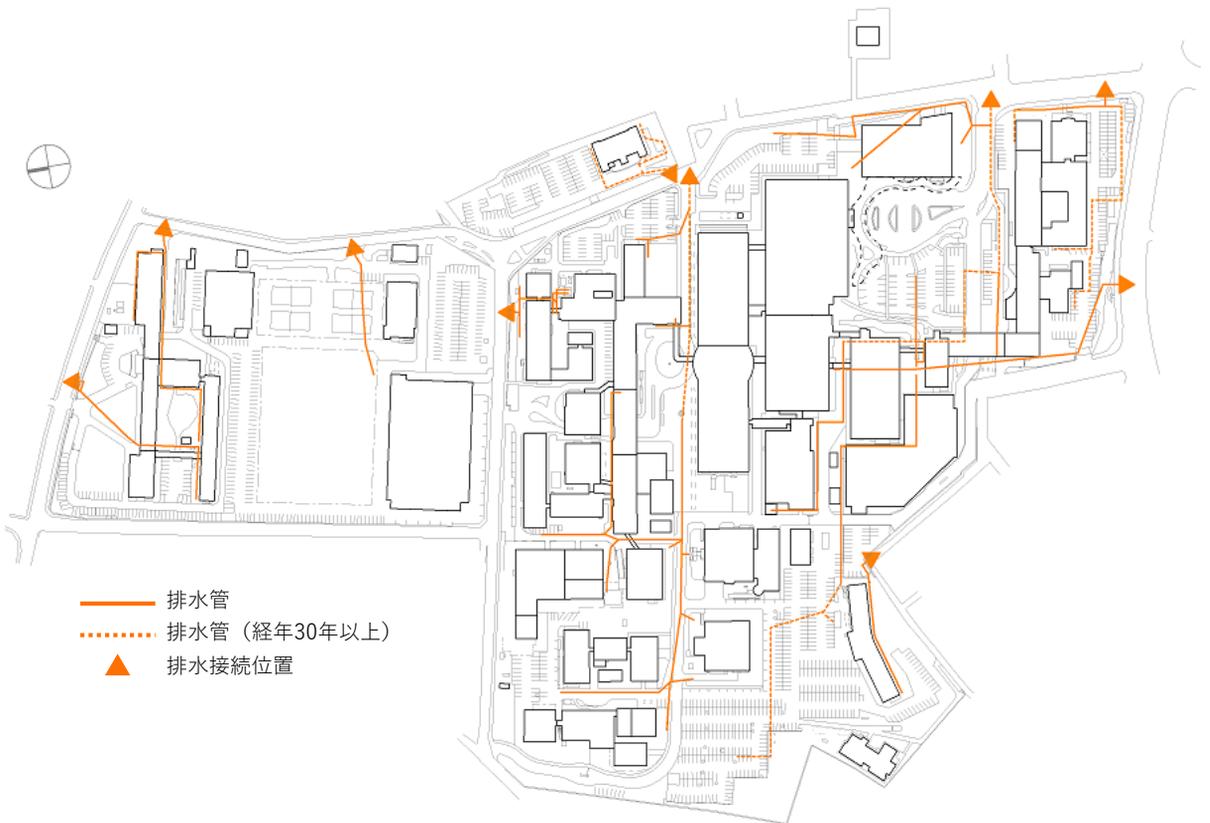


旭町キャンパス 給水設備配置図

02-3

キャンパスの現状と課題

旭町キャンパス



旭町キャンパス 排水設備配置図

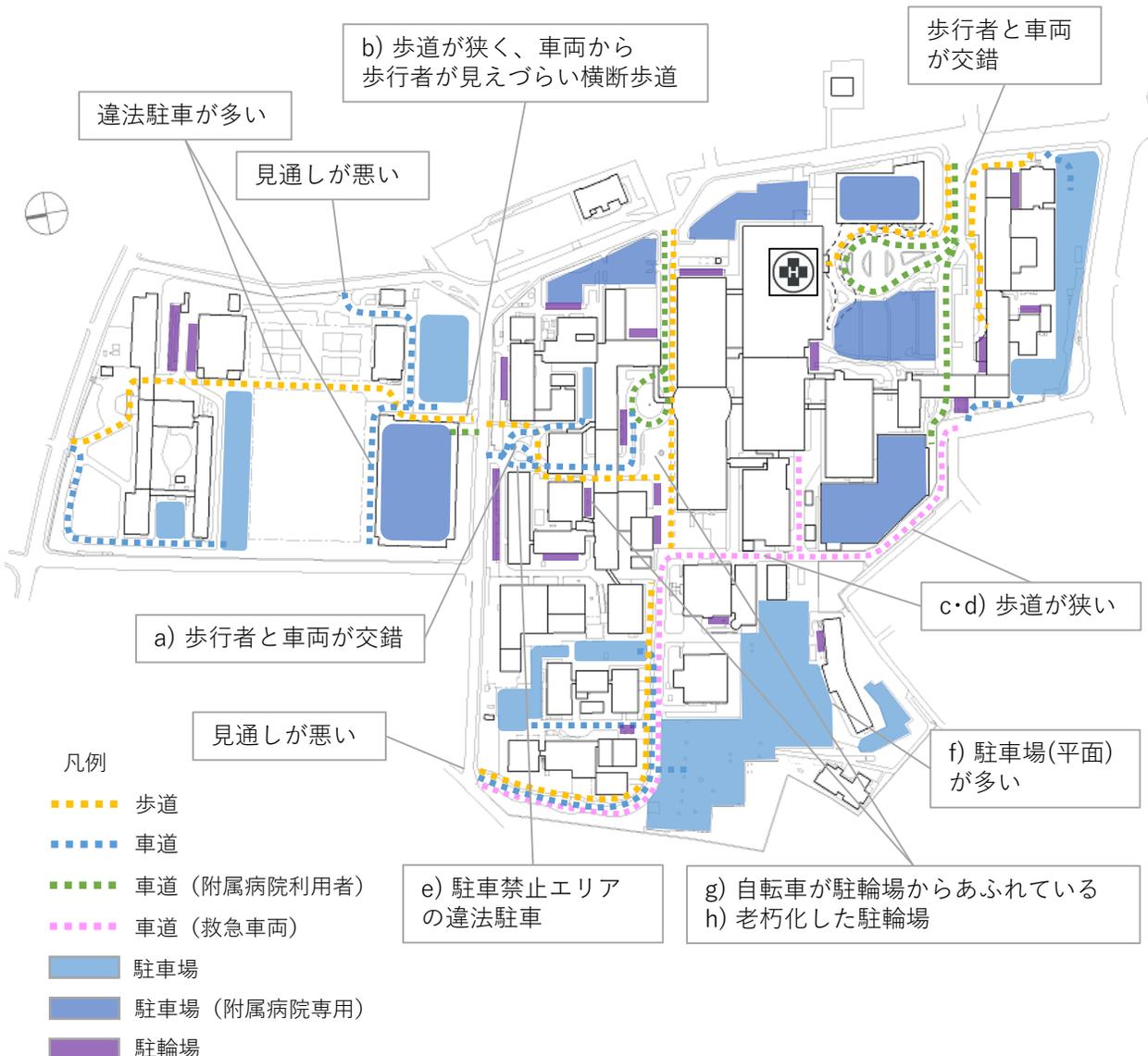


旭町キャンパス ガス設備配置図

4. 交通環境

〈現状〉

- 歩道が整備されておらず、歩行者と車両が交錯する危険な箇所や、歩行者が市道を横断する際に危険な箇所が存在している。
- キャンパス全体に駐車場（平面）が多く、敷地に余裕がない。
- 駐車場・駐輪場以外の場所に停められていたり、老朽化した駐輪場がある。
- 建物間を渡り廊下でつないだ内部動線が整備されている。

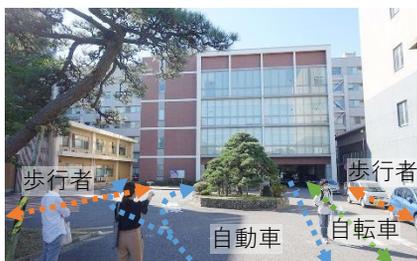


旭町キャンパス 交通環境配置図

02-3

キャンパスの現状と課題

旭町キャンパス



a) 歩道と車道が交錯（赤門周辺）



b) 歩道が狭く、車両から歩行者が見えづらい横断歩道（赤門周辺）



c) 歩道が狭い（図書館脇道路）



d) 歩道が狭い（立体駐車場通路）



e) 駐車禁止エリアの違法駐車（医学部脇）



f) 駐車場（平面）が多い



g) 自転車が駐輪場からあふれている（医学部前）



h) 老朽化した駐輪場（医学部脇）

〈課題〉

- 歩行者と車の明確に分離するなど、主要な軸線における歩行者の安全確保
- 違法駐車を無くし利便性も考慮した駐車・駐輪場の再配置や、サイン等の工夫
- 駐車・駐輪台数を把握したうえで、必要な駐輪場の整備や、駐車場の集約化（立体化）等の検討

5. 屋外環境

〈現状〉

- ・ キャンパスマスタープラン2016において、屋外アメニティスペースの拡充整備を目指していたが、多くが実現していない。
- ・ 登録有形文化財である旭町学術資料展示館や赤門周辺が、地域に発信する場として整備されておらず、シンボルとして活かされていない。



旭町キャンパス 屋外環境配置図

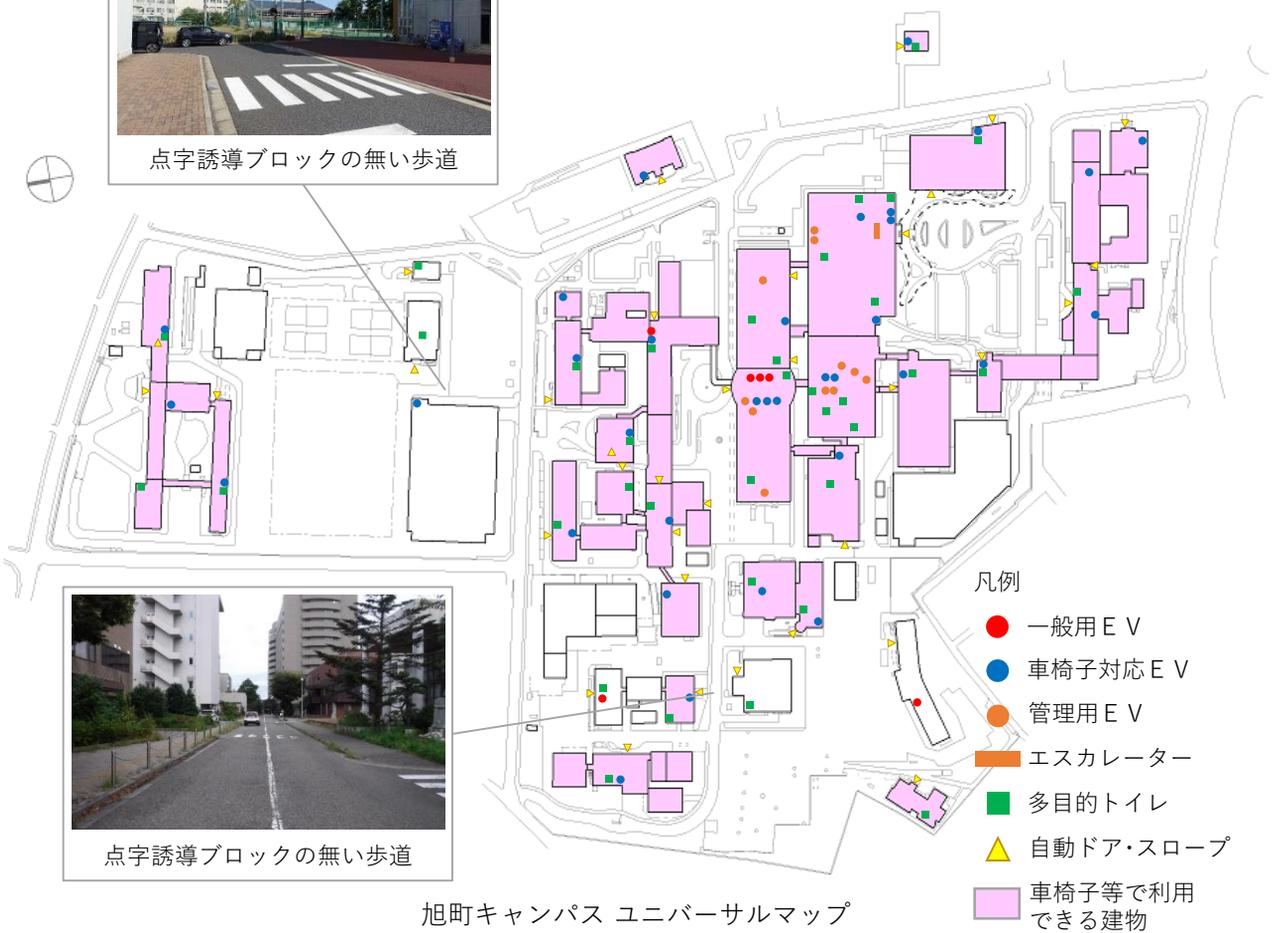
〈課題〉

- ・ 地域交流も推進する、広場等のパブリックスペースの充実
- ・ 歴史的景観を活かし、動線にも配慮した屋外環境整備（特に旭町学術資料展示館や赤門周辺）

6. ユニバーサルデザイン

〈現状〉

- 建物内のバリアフリー（自動ドア、多目的トイレ、車椅子対応エレベーター等）は、建物大規模改修に合わせ整備されているが、大規模改修がこれからの施設や小規模の施設については、未整備となっている。
- 附属病院以外の整備済みの多目的トイレにおいても、大半が1階のみに整備されており、オストメイトに対応していない。
- 屋外について、歩道の点字誘導ブロックが無い箇所がある。



〈課題〉

- 大規模改修に合わせた建物内のバリアフリー対策整備
- 多目的トイレの各階への設置やオストメイトの設置の検討・整備
- 歩道の整備や点字誘導ブロックの設置等の整備
- ダイバーシティ（多様性）への配慮

7. 防災

〈現状〉

- 過去の大規模災害等を踏まえて作成された「新潟大学危機管理計画」「新潟大学事業継続計画（BCP）」「新潟大学医歯学総合病院事業継続計画（BCP）」に基づき、災害発生時等の危機対応を組織的に整備するとともに、災害対策に必要な設備の整備や災害対応訓練などを実施している。
- 大規模災害発生等の予期せぬ事態に備え、本学の危機管理機能の強化と充実を図るため、災害備蓄庫（鉄骨造2階建て、384㎡）の整備を行った。また、新潟県の災害拠点病院に指定されている医歯学総合病院において、大規模災害時の災害拠点病院運営に万全を期すために、自家発電設備の整備や敷地境界部のレンガ・ブロック塀の耐震対策を実施した。
- 学内利用者の安全確保のため、防災に関する海拔表示板を設置した。



災害備蓄庫



海拔表示板の設置



レンガ塀の耐震対策

〈課題〉

- 今後の予期せぬ大規模災害発生等事態に備え、災害時にも重要な教育・研究を継続できるバックアップ機能や機能回復の迅速化の実現
- 避難所機能（立地や設備含む）としての充実化
- 感染症対策・災害（雪害等）を踏まえた整備

8. 防犯

〈現状〉

- 本学キャンパスのセキュリティ対策は、これまで部局毎にセキュリティ対策が講じられている一方で、本学が「開かれたキャンパス」でもあることから、敷地境界のフェンス等の囲障の設置、外灯の設置、警備会社の夜間常駐等を行っている。
- キャンパスは新潟市の中心部に位置しており、夜間でも周辺施設からの明かりがあり、交通量も多い。構内には病院施設もあり、学生や教職員の他に患者等の多くの学外者が利用している。敷地境界から建物までが近く建物間隔も狭いため、死角になるエリアも少ない。
- 外部からの侵入者に対する学内利用者の安全のため、キャンパス内の防犯対策や防犯カメラ・敷地境界フェンス、外灯の検討を行ったうえで、外灯、防犯カメラ及び注意喚起の看板の設置を行った。



注意喚起看板の設置



敷地境界部の状況

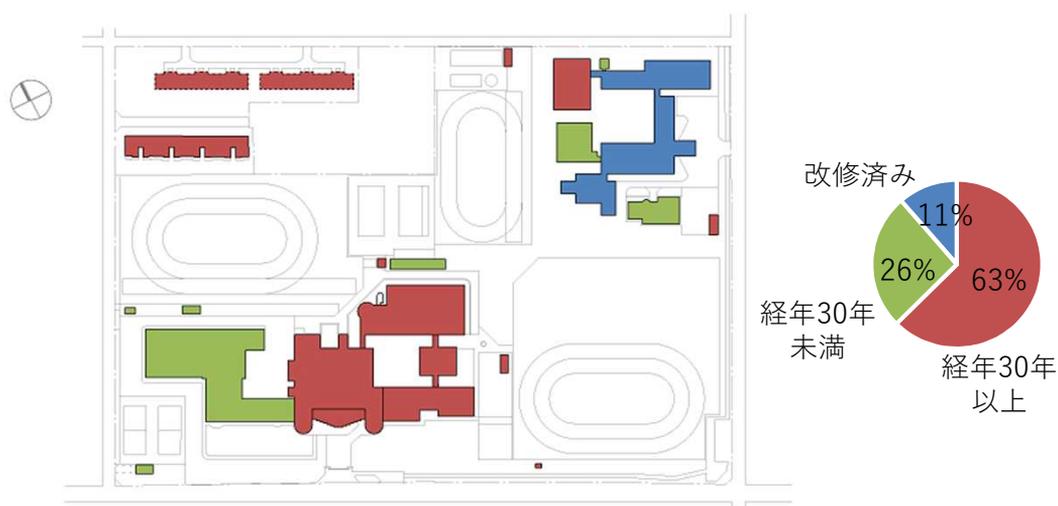
〈課題〉

- キャンパス内での不審者等の犯罪防止、交通事故の防止、日常の安全性確保のための防犯対策など、物理的なセキュリティレベルに応じたセキュリティーの整備

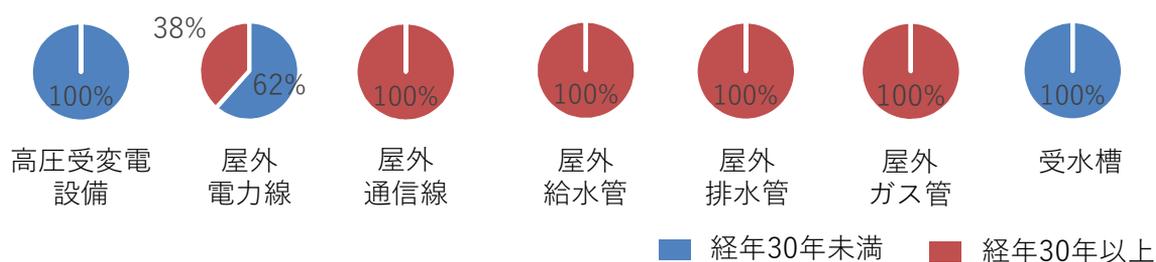
1. 施設の整備状況（経年数）・ライフライン

〈現状〉

- 西大畑町キャンパスの職員宿舎を除くすべての建物の耐震対策は完了しているが、約6割（約9万㎡）は「経年30年以上で未改修」の老朽施設である。
- 職員宿舎2棟は廃止済みである。
- ライフラインについては、経年30年以上が45%を占めており、五十嵐・旭町キャンパスに比べ整備が遅れている。



西大畑町キャンパス経年別施設配置図



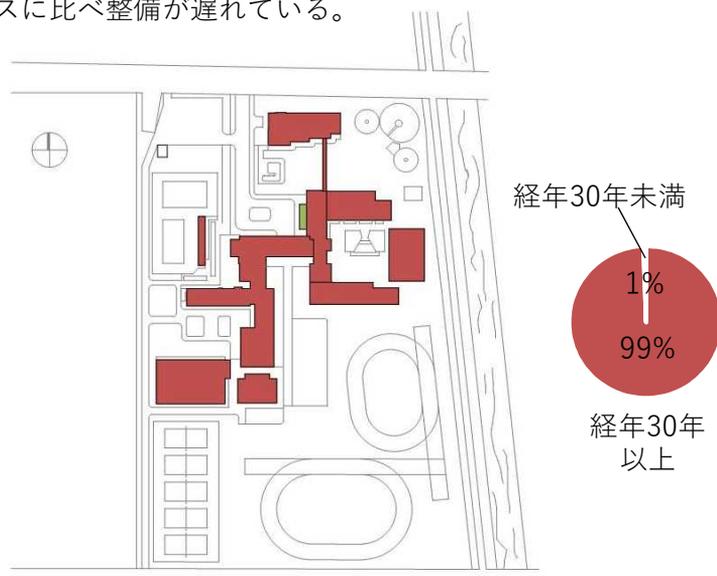
〈課題〉

- 施設・設備の経年劣化や機能低下に応じた効果的・効率的な改修整備
- キャンパス内での不審者等の犯罪防止、交通事故の防止、日常の安全性確保のための防災・防犯対策など、物理的なセキュリティレベルに応じたセキュリティの整備
- 感染症対策・災害（雪害等）を踏まえた整備
- 災害・危機管理事案が顕著化した際に、教育・研究の事業継続ができるバックアップ機能ならびに復旧のしやすさ、機能回復の迅速化を踏まえた整備

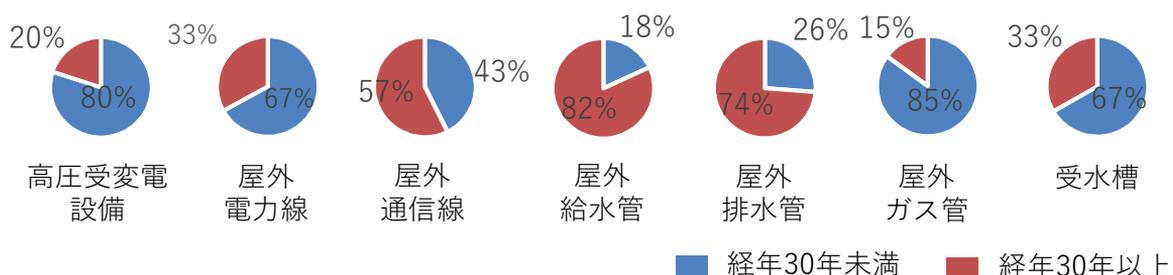
1. 施設の整備状況（経年数）・ライフライン

〈現状〉

- 長岡キャンパスは、2004年に発生した中越地震による被災部分については災害復旧により改善されているが、全体としては「経年30年以上で未改修」の老朽施設である。
- ライフラインについては、経年30年以上が63%を占めており、五十嵐・旭町キャンパスに比べ整備が遅れている。



長岡キャンパス経年別施設配置図



〈課題〉

- 施設・設備の経年劣化や機能低下に応じた効果的・効率的な改修整備
- キャンパス内での不審者等の犯罪防止、交通事故の防止、日常の安全性確保のための防災・防犯対策など、物理的なセキュリティレベルに応じたセキュリティの整備
- 感染症対策・災害（雪害等）を踏まえた整備
- 災害・危機管理事案が顕著化した際に、教育・研究の事業継続ができるバックアップ機能ならびに復旧のしやすさ、機能回復の迅速化を踏まえた整備

1. クオリティマネジメント

〈現状〉

- 無線LANアクセスポイントを講義室のほか、リフレッシュスペース等に設置し、情報機能の充実を図っている。
- 研究施設の機能として、研究内容に応じた適切な機能の確保を行っている。
- 障害者の視点での整備（バリアフリー化）やユニバーサルマップをホームページ上で公開するなど、生活機能の向上を図っている。
- 地震・津波や海外留学時に対応した危機管理マニュアルを整備しているほか、実験室の化学物質の管理基準の設定、外灯や防犯カメラの整備による夜間の防犯対策を行い、安全の確保を図っている。
- 講義室等については、新型コロナウイルス対策に対応した換気設備の設置を行っている。

〈課題〉

- 施設マネジメントを推進するため、教育・学習施設としての機能の確保、研究施設としての機能の確保、生活機能の向上、安全の確保等について、目標を設定し、施設水準を定めることが必要。
- 教育・学習施設としては、学生の学習や討論等のための場所や機能の充実を図ることが必要。
- 研究施設としては、研究内容の変化に対応できる柔軟性・拡張性を持った電気設備等の整備や、異分野の研究者の交流が推進されるスペースの確保や機能の充実を図ることが必要。
- 生活機能の向上としては、ダイバーシティ推進室と連携し、様々な人に配慮した整備を進めていくことが必要。また、キャンパスの利便性や快適性を向上させるための屋外環境整備が必要。
- 安全の確保としては、危険物管理の観点から、未管理の物質等がないかを確認するための方法を検討することが必要。
- 新型コロナウイルスの対応としては、授業形態の変化に対応する講義室等の整備（リモート授業への対応、講義室の大きさの見直し等）を行うことが必要。

02-6

キャンパスの現状と課題

施設マネジメント

2. スペースマネジメント

〈現状〉

- ・ 学生数や教員数が減少したにも関わらず、建設当初のままの面積を利用しているなど、利用する面積が過大な部局があり、部局間の面積に格差がある。
- ・ 全学共用スペースの運用が各部局に委ねられており、大学として設置する新たな組織のスペースや、プロジェクト等に必要なスペースの確保が難航した。
- ・ 定期的実施している施設の点検調査において、一定期間利用されていない室が確認されている。

〈課題〉

- ・ 部局の面積における学系間の不均衡を是正する必要がある。
- ・ 管理・運用が全学で統一されていない全学共用スペースを全学的な管理へ移行する必要がある。
- ・ 一定期間利用されていない室の有効活用を推進する必要がある。

現状の部局面積と保有率



3. コストマネジメント

〈現状〉

- 施設の長寿命化に向けたインフラの維持管理・更新を着実に推進していくため、インフラ長寿命化計画（個別施設計画）及び（部位別更新計画）を策定している。
- 施設の整備費用については、寄附金や他省庁の補助金なども活用している。
- 保全業務契約においては、複数年契約を実施し、業務費用の縮減、事務作業の省力化を図っている。
- 工事契約においては、設計段階での新技術の採用や完成後の維持管理費を考慮した設備の採用を行い、トータルコストの縮減を図っている。
- 省エネルギー対策として、大学全体で平成28年度のエネルギー消費量を基準とし平成29年度から毎年1.0%ずつ削減する目標を掲げた。
- 太陽光発電設備は全体エネルギー使用量の0.2%/年を発電している。（五十嵐地区中央図書館の太陽光発電設備 発電容量100kW）
- エネルギー使用構成比及びCO₂構成比は、電力約70%、ガス約29%、重油約1%となっており、令和2年度の電気・ガス・重油によるCO₂排出量は約3.4万t-CO₂である。

〈課題〉

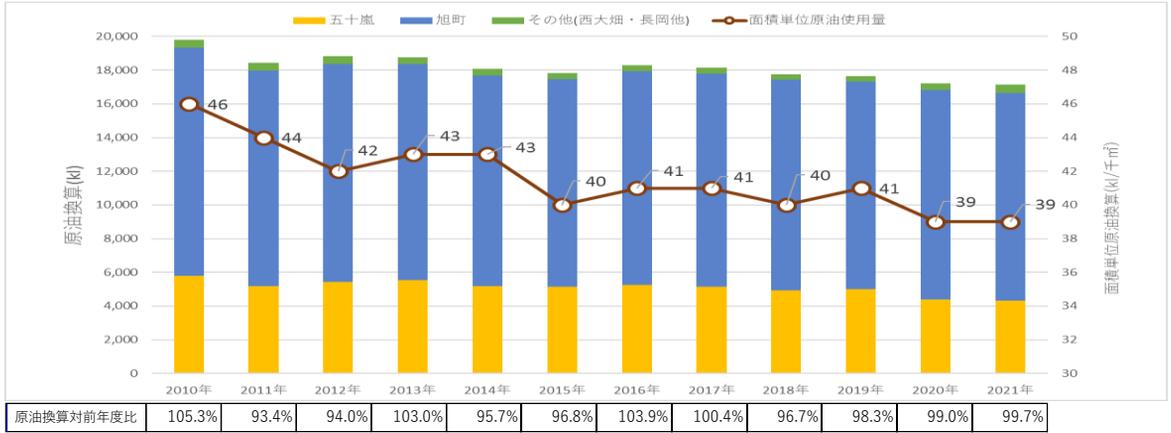
- インフラ長寿命化計画を進めるために必要な予算は、本学の施設の維持管理費の実績からは不足しており、安定的な財源の確保が必要。
- 運営費交付金以外の多様な財源による整備を増やしていくことが必要。
- 引き続き省エネルギー対策は継続しながら、持続可能な開発目標SDGsやカーボンニュートラルへの取り組みが必要。
- CO₂排出量については、削減目標の設定、計画の策定が必要。
- 電力使用量の見える化として、部局単位でホームページ上で公開しているが、今後は建物単位での公開も必要。

02-6

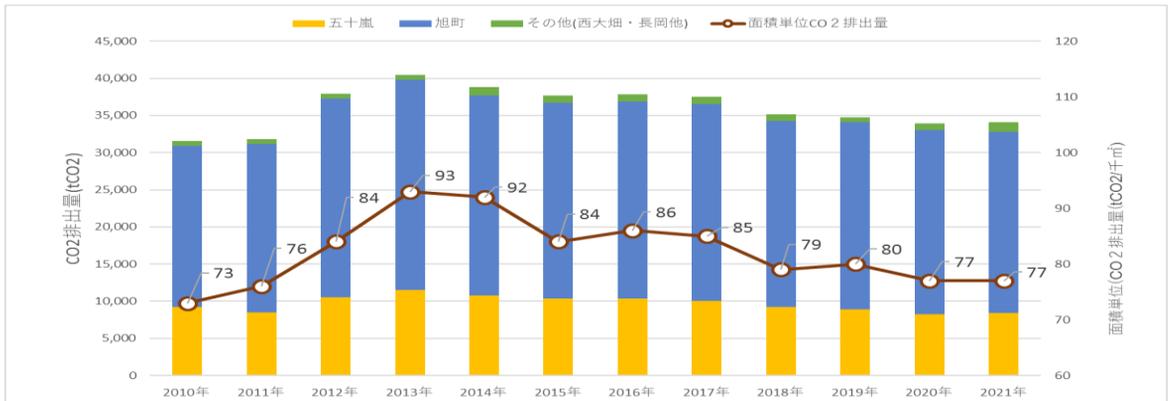
キャンパスの現状と課題

施設マネジメント

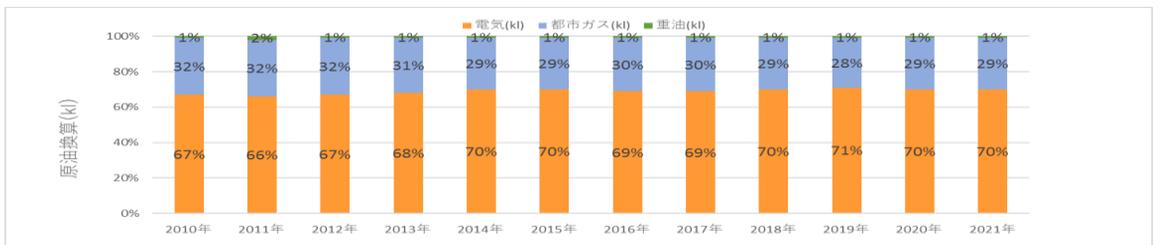
エネルギー使用量推移



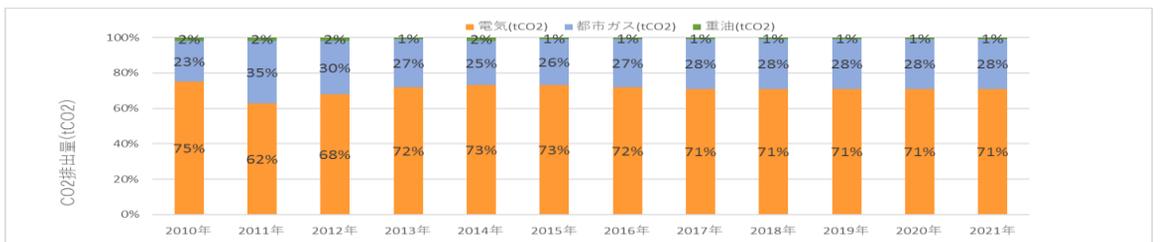
CO₂排出量推移



エネルギー使用量構成比



CO₂排出量構成比



※2021年度については、2022年1月～3月の数値を推定し算出表記しているため、参考数値とする。

03 キャンパス 整備の方針

NIIGATA UNIV CAMPUS MASTER PLAN 2022

03-1 キャンパス整備の基本方針

03-2 キャンパスの整備・活用方針

1. 良好なキャンパス環境の必要性

大学のキャンパス環境は、独創的・先端的な学術研究や創造性豊かな人材養成のための知的創造活動や知的資産の継承の場である。能力の陶冶と人格形成の場として、所要の施設の機能を備えることはもとより、大学の歴史や伝統を踏まえ、次世代に継承していけるような施設環境を整えることは、知的なものに対する取組のシンボルであり、次世代へのメッセージである。

また、キャンパスは、学生や教職員をはじめ多くの人々が集い、独創的な活動を織りなす多様なコミュニケーションの場を形成している。キャンパス環境を、人間性・文化性に配慮したゆとりと潤いのあるアカデミックな雰囲気にも満たすものは、知的で創造的な活動の活性化を促し、新たな時代における発展の礎を築くものである。

このように、大学施設は、次代を担う豊かな人材を育て、より高度な教育研究活動の展開や国際社会・地域社会に貢献する独創的・先端的な学術研究の推進、研究交流の促進、国際交流の推進、生涯学習社会の実現を図っていく上で基盤を成すものであることから、そこで活動する学生、教職員にとって魅力的な教育研究環境の創出は不可欠である。

2. キャンパス整備の基本方針

新潟大学将来ビジョンや第5次国立大学法人等施設整備5か年計画、キャンパスの現状把握を踏まえた上で、第4期中期目標期間中（2022年度～2027年度）におけるキャンパスマスタープランの基本方針を以下に定める。

<基本方針>

- ①新しい社会環境に対応する教育・研究・学生支援に対する施設整備を目指す。
- ②地域と密着しつつ、多様なステークホルダーと共創する教育・研究・医療の中核施設を目指す。
- ③災害に強く、安全・安心なキャンパス環境の整備を目指す。
- ④地球環境に配慮したエコキャンパスを目指す。
- ⑤施設の点検・評価を行い、土地・建物を有効活用し、長期的視野に基づき弾力的に保有施設を運用する。

03-2

キャンパス整備の方針

キャンパスの整備・活用方針

1. キャンパスの整備・活用方針

<基本方針①>

新しい社会環境に対応する教育・研究・学生支援に対する施設整備を目指す。

整備・活用方針

- ・ 教育研究の多様化・高度化に対応した整備充実を図る。
- ・ デジタルとリアルを融合したスマートキャンパスを実現するDX（※1）の環境整備を推進する。
- ・ 有意義で充実した学生生活を送れるよう、課外活動施設や福利厚生施設の更なる充実を図る。

<基本方針②>

地域と密着しつつ、多様なステークホルダーと共創する教育・研究・医療の中核施設を目指す。

整備・活用方針

- ・ キャンパス全体をイノベーションコモンズ（※2）化しあらゆるステークホルダーが有機的に「つながる」教育環境整備を推進する。
- ・ 学生・外国人留学生・教職員等の交流を促し、大学の魅力を発信するスペースの整備を推進する。
- ・ 地域に開かれ魅力的なキャンパスとして全体の景観に配慮し、交流を促進するパブリックスペースの整備を推進する。
- ・ ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい機能を有した施設整備を推進する。

<基本方針③>

災害に強く、安全・安心なキャンパス環境の整備を目指す。

整備・活用方針

- ・ 学生・教職員の安全・安心な教育研究環境を確保し、地域の防災拠点となる整備を推進する。
- ・ 感染症対策にも配慮した快適で安全な医療・教育研究環境の整備を推進する。
- ・ 開かれた大学としてオープンとクローズのバランスを図るため、防犯・安全性に配慮した環境整備を推進する。
- ・ 『インフラ長寿命化計画』に基づき、計画的なインフラの整備および維持管理を推進する。

03-2

キャンパス整備の方針

キャンパスの整備・活用方針

<基本方針④>

地球環境に配慮したエコキャンパスを目指す。

整備・活用方針

- SDGsを通じて本学並びに社会の持続的発展に向けて「省エネ」、「創エネ」、「畜エネ」、「教育・研究エネ」などのサステイナブルの取り組みを推進する。
- 脱炭素キャンパスに向けて、大学の教育研究医療の活動や質を維持し、大学全体の直近5年度間平均エネルギー使用量の年1%以上削減を目指す。
- 環境に関するデジタルデータの常時収集とオープン化により省エネを促進する。

<基本方針⑤>

施設の点検・評価を行い、土地・建物を有効活用し、長期的視野に基づき弾力的に保有施設を運用する。

整備・活用方針

- 施設情報をデータベース化し、戦略的かつ柔軟な施設の運用で、限りあるスペース活用の活性化を図る。
- 施設とインフラの効果的・効率的な運用を行う。
- 再開発や将来需要への対応等を踏まえたキャンパス計画により、敷地を有効に活用する。

※1 DX（デジタル・トランスフォーメーション）：IT（情報技術）が社会のあらゆる領域に浸透することによってもたらされる変革

※2 イノベーションコモンズ：ソフト・ハードの取組が一体となり、対面とオンラインとのコミュニケーションを融合させながら、あらゆる分野、あらゆる場面で、あらゆるプレイヤーが「共創」できるキャンパスであり、教育研究施設だけでなく、食堂や寮、屋外空間等も含めキャンパス全体が有機的に連携した「共創」の拠点

04 キャンパスの 整備計画

NIIGATA UNIV CAMPUS MASTER PLAN 2022

- 04-1 キャンパスマスタープラン2022のポイント
- 04-2 五十嵐キャンパス
- 04-3 旭町キャンパス
- 04-4 西大畑町キャンパス・長岡キャンパス
- 04-5 キャンパスデザイン
- 04-6 施設マネジメント

04-1

キャンパスの整備計画

キャンパスマスタープラン2022のポイント

1. 部門別計画

本学の目標を達成するため、基本方針や整備・活用方針を踏まえ、長期的な観点のゾーニング計画、動線・交通計画、施設整備計画、屋外環境計画、インフラ整備計画の整備面の計画と、施設マネジメントの運用面の計画を、一体的に推進する。



キャンパスマスタープラン2022のポイント（整備面）

キャンパス全体が有機的に つながる共創拠点の形成

- キャンパスの骨格をなす軸線の再定義
- インフォメーションスポット、産学・地域連携スポット等、魅力ある大学の発信拠点の整備
- ゾーニングの転換

交通動線の改善

- 歩車分離・安全な歩道整備、快適で魅力的な歩行空間整備
- 将来的に、五十嵐キャンパスにおいて、キャンパスモール中央部分を歩行者・自転車専用とし、周回道路を整備
- 将来的に、旭町キャンパスにおいて、立体交差により歩車道を分離したペDESTリアンデッキ等を整備

スマートキャンパスの実現

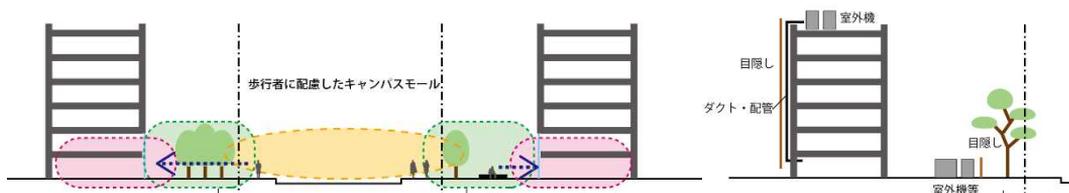
- ハイブリッド型学習への対応、パブリックスペースにおけるICT環境の整備
- ネットワークの高速化・多数同時接続などの情報インフラ整備
- サイバーセキュリティ対策の強化

防犯・安全対策

- セキュリティレベルの設定
- 防犯カメラ・外灯の整備
- 災害時にも必要最低限の活動が維持できるインフラ機能の強化

キャンパスのデザインガイドライン

- 魅力的でわかりやすい空間構成・統一感のあるデザインの設定
- 歴史的景観・自然景観に配慮した建物周辺環境整備
- 環境負荷低減に配慮した建物デザイン、統一的な誘導サイン

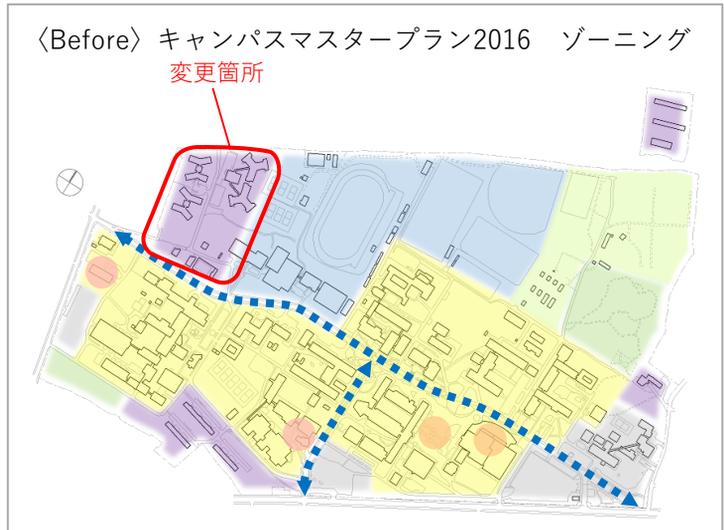


04-1

キャンパスの整備計画

キャンパスマスタープラン2022のポイント

【五十嵐キャンパス】



04-1

キャンパスの整備計画

キャンパスマスタープラン2022のポイント

【旭町キャンパス】

ペDESTリアンデッキ等の
立体交差による歩車道分離・
動線確保 (将来)



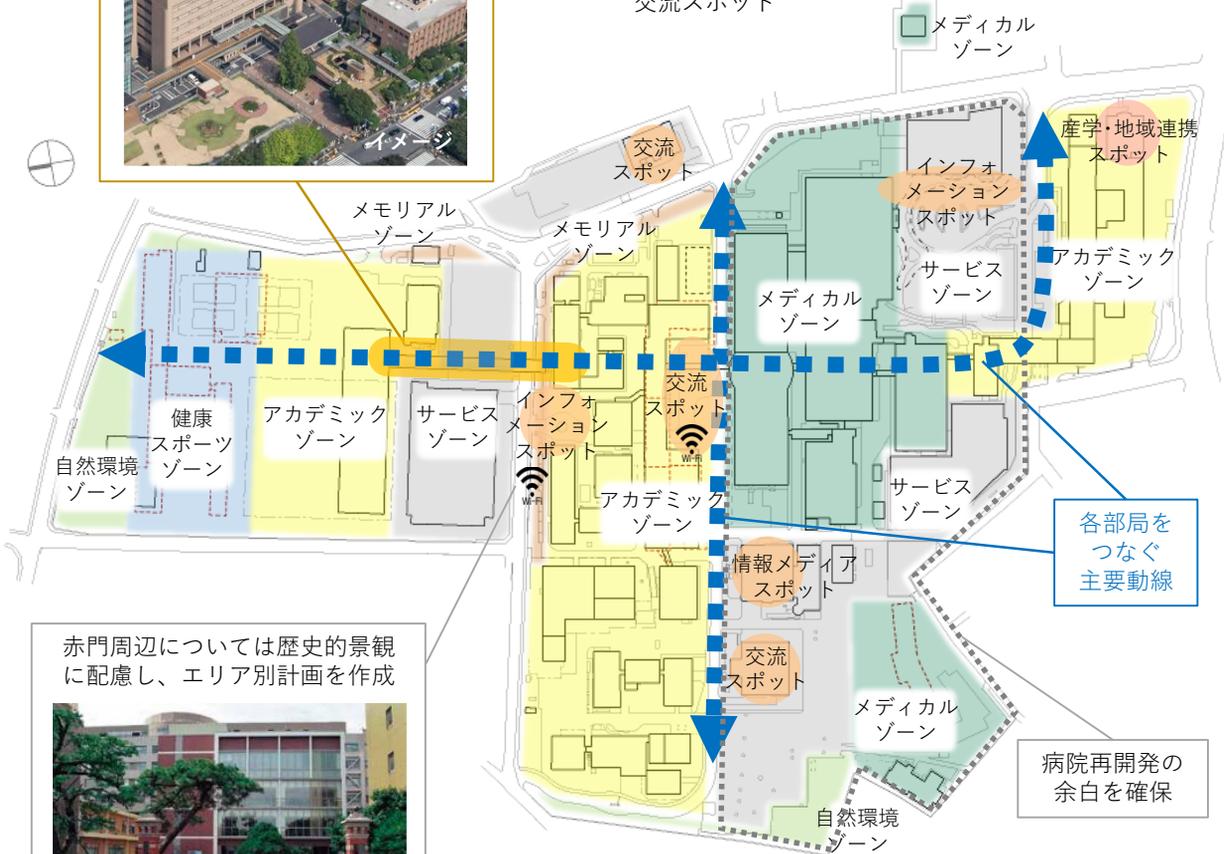
イメージ

交流スポット



イメージ

インフォメーションスポット



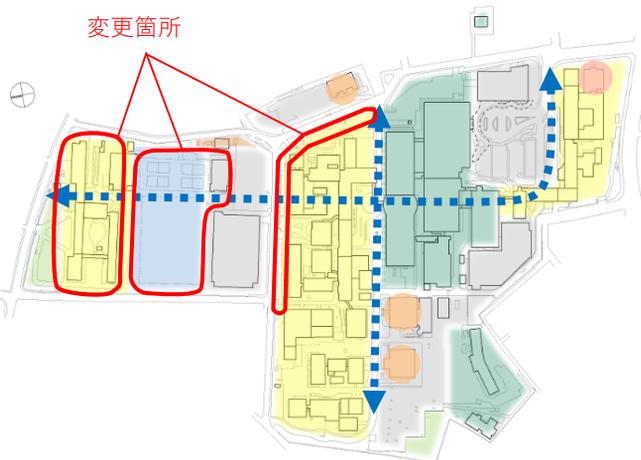
赤門周辺については歴史的景観に配慮し、エリア別計画を作成



新潟医学専門学校当時（大正時代）

〈Before〉 キャンパスマスタープラン2016 ゾーニング

変更箇所



2. 施設マネジメント

全学的な観点による施設マネジメント（クオリティ、スペース、コスト）を推進するため、インフラ長寿命化計画に基づき、概算要求や部位別更新を行う。また、建物の長寿命化に必要な改修費や維持管理費の財源を安定的に確保する。

キャンパスマスタープラン2022のポイント（運用面）

クオリティマネジメント（施設の質の管理）

管理体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> 点検評価・改善の実施体制を構築 快適なキャンパス環境の実現 	交流を推進する取り組み <ul style="list-style-type: none"> 学生教職員・地域住民等との協力体制 パブリックスペースの積極的活用
スマートキャンパスの実現 <ul style="list-style-type: none"> キャンパスを実証の場として活用 サイバーセキュリティ対策の強化 	安全・安心 <ul style="list-style-type: none"> 災害時の情報管理・機能充実 研究用危険物管理

スペースマネジメント（施設の運用管理）

スペースチャージ制度の導入 <ul style="list-style-type: none"> 学系間の面積不均衡の是正 平均保有率の設定 	全学共用スペースの統一的運用 <ul style="list-style-type: none"> スペースの弾力的な運用による教育研究活動の弾力的な活性化 学長主導の大学運営を推進
施設の点検調査 <ul style="list-style-type: none"> 施設の有効活用の促進 書面・実地調査を毎年実施 	スペースの活用状況の見える化 <ul style="list-style-type: none"> 限りある大学施設利用の最大化 講義室・全学共用スペースの活用

コストマネジメント（施設に係るコスト管理）

計画的な施設整備 <ul style="list-style-type: none"> インフラ長寿命化計画（個別施設計画）（部位別更新計画）の実施 	多様な財源・整備手法の活用 <ul style="list-style-type: none"> 寄附金・他省庁の補助金 等 PPP/PFI 等
維持管理費の確保 <ul style="list-style-type: none"> 全学的な修繕費 目的積立金 スペースチャージ使用料 全学共用スペース施設利用料 	カーボンニュートラル・キャンパス <ul style="list-style-type: none"> 省エネ化・自然エネルギーの導入拡大 ICT環境を活用した全学的なエネルギーマネジメント

04-2

キャンパスの整備計画 五十嵐キャンパス

1. 五十嵐キャンパスの位置づけ

五十嵐キャンパスは、日本海と緑に囲まれた自然環境豊かな郊外型のキャンパス環境を活かし、主要キャンパスとして多様なステークホルダーの共創を生み出す魅力ある空間を形成しつつ、変化する教育研究環境に対応した安全で良好な、教育・研究環境を創出していくことを目指す。

2. ゾーニング

(1) キャンパスの骨格をなす軸線の再定義

キャンパスモール東西軸は全ての学部をつなぐ教育研究の主要動線、南北軸は北側を延長し産学・地域と教育研究をつなぐ情報発信動線、西門－工学部軸は新たに歴史あるマツ並木を継承する景観保全動線と定義する。

(2) キャンパスの軸線や特性を活かしたゾーニングの計画

- ・ 正門及び西門周辺を魅力ある大学の発信拠点となる「インフォメーションスポット」、教育学系北側をイノベーションコモンズの「産学・地域連携スポット」として位置付ける。
- ・ 現在の学生寮のあるゾーンは、将来的に賑わいの創出等を考慮し、南側居住ゾーンへ緩やかに移行する。



3. 動線・交通計画

(1) ユニバーサルデザイン

建物用途や障がい者等の利用状況を踏まえて、専用駐車場を設置し、キャンパスモールから各建物の主出入口へ、点字ブロックや音声案内、多言語に対応したサインなどにより誘導可能とする。

(2) 車両動線・歩行者動線

- 歩行者の安全確保のため、歩道を明確に整備し車両との交錯を解消し、快適で魅力的な歩行空間を確保する。
- 車道については、危険な箇所に注意喚起の案内標識等を設置し、交通動線が交錯し危険性の高い箇所（西門等）については、エリア別計画を今後検討する。将来的には、安全・安心な交通環境のためキャンパスモール中央を歩行・自転車動線とすることを目指し、周回道路を整備する。

(3) 駐車場・駐輪場

駐輪場は、安全で利便性が高くキャンパスの景観に配慮した位置とする。歩道整備に伴い、キャンパスモール沿いの駐輪場は各建物周辺に再配置し、将来的には駐車場を敷地周囲や周回道路沿いに再配置する。

(4) その他

- 構内での交通事故による人命に関わる大事故が発生しないように、ハンプやサイン設置等を充実する。
- 冬季における除雪動線を確保し、排雪場所を設定する。



五十嵐キャンパス 動線・交通計画配置図

4. 施設整備計画

(1) 施設整備の方向性

施設の長寿命化を目指し『インフラ長寿命化計画』に基づいた計画的な改修を行うとともに、施設のトリアージを行いながら、大学のビジョン実現のため必要な新增築及び改修を行った場合は、景観に配慮しキャンパスモールを含んだ建物の空間構成などを定めた「キャンパスデザインガイドライン」に沿った計画とする。

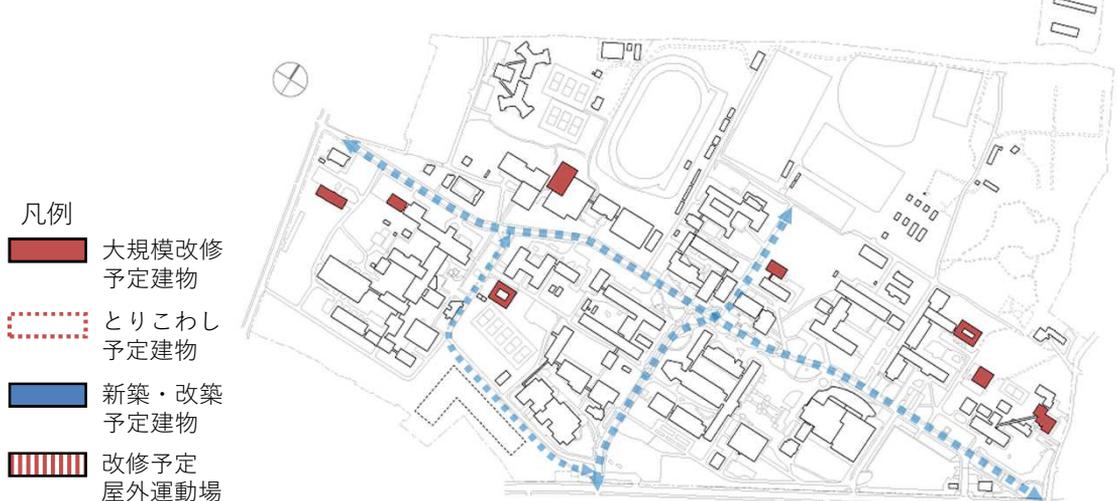
(2) 短期・中期・長期計画

短期計画として、教育研究の多様化・高度化に対応し、新たに必要とされる機能を備えた施設の設置を検討し、中・長期計画として、将来的な建物の建替え等を踏まえ、集約化や高層化を検討する。

・ 短期計画 (2022～2031年)



・ 中期計画 (2032～2041年)



04-2

キャンパスの整備計画 五十嵐キャンパス

- ・ 長期計画（2042～2051年）



(3) 学生生活の充実

- ・ 有意義で充実した学生生活を送れるよう、課外活動施設や福利厚生施設を充実させる。

(4) ユニバーサルデザイン

- ・ 建物の整備にあたっては、ユニバーサルデザイン関係法令等に従い、ニーズに合わせて必要な機能を整備する。
- ・ ダイバーシティ（多様性）の視点に配慮し、特にトイレ・更衣室等については多目的に利用できるよう計画する。
- ・ エレベーターや多目的トイレ等に関する情報が得られるよう、ウェブ上で位置や設備内容を公開する。

(5) サステイナブルキャンパス

- ・ 地球環境に対する負荷の低減、温室効果ガス排出抑制に努める。
- ・ キャンパスの運用にてサステイナブルな社会のモデルとなる脱炭素キャンパスを目指し、高効率空調機・LED照明・自然換気・昼光利用・人感センサー等を導入する。
- ・ 新增改築や改修にあたっては、費用対効果を考慮した上で、パッシブ技術や再生可能エネルギーの導入によるZEB（※）化や、都市ガスからCO₂排出量の少ない電力設備へのエネルギー転換等、地域社会の先導モデルとなる施設整備を行う。

(6) 防犯・安全対策

- 防犯面から、個人情報や知財・研究に係る情報等における建物・部屋毎のセキュリティレベルを設定し、全学的に統一した入退室管理などの保護策を導入する。また犯罪・不正行為の抑止力として防犯カメラを適切に配置する。
- 感染症対策として、講義室や演習室等の換気対策、共通手洗い等の自動水栓化、トイレの洋式便器化を行う。
- 『新潟大学危機管理計画』『新潟大学事業継続計画（BCP）』に対応し、自治体が行う被害想定に応じた施設整備を行う。
- 建物建て替え時等、将来的には、物資供給等の動線も考慮した災害時に有効な施設配置とする。

(7) スマートキャンパス

- 全学的なDX推進に伴う、教育・研究活動におけるハイブリッド型学習に対応した講義室等を整備する。
- 利便性と安全性に配慮した全学共通の入退室管理システムを導入する。

※ ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）：建築計画の工夫による日射遮蔽・自然エネルギーの利用、高断熱化、高効率化によって大幅な省エネルギーを実現した上で、太陽光発電等によってエネルギーを創り、年間に消費するエネルギー量が大幅に削減されている最先端の建築物

04-2

キャンパスの整備計画 五十嵐キャンパス

(2) 緑地計画

- キャンパスモールに沿って現存するケヤキ並木、移転前から存在する農道沿いのマツ並木（景観保全エリア）、記念樹等は保存し、大学の森・ゆきつばき園・アカマツ林等は、希少な植生を活かしたエコミュージアムとして活用する。
- クロマツについては『黒松等管理計画』に基づき適切に管理する。
- 健康スポーツゾーンの緑地は、既存のウォーキングコースと併せて、交流を促進する緑地として整備する。
- 北側敷地境界沿いの緑地は防風林として、それ以外の境界沿いの緑地は隣地との緩衝帯となるグリーンベルトとして管理する。
- 生物多様性に配慮し、緑地ネットワークとして緑地をつなぎ、貴重な生態系を適切に保全する。
- 構内緑地管理により、発生する間伐木を再生可能な生物資源として県内の木質バイオマス発電所に供給するなど、地域と連携した好循環なカーボンニュートラルに取り組む。



五十嵐キャンパス 緑地計画配置図

(3) 屋外環境整備

- 屋外環境整備にあたっては、バリアフリー関係法令等に従い、キャンパスモール・植栽等の構成についてはキャンパスデザインガイドラインに沿った計画とする。また、記念碑等の保存についても考慮し、本学の歴史を次世代へ継承する計画とする。
- ICTを活用した情報発信ツール（デジタルサイネージ等）を備えた交流スペースの整備を推進することで、学内だけでなく地域に開放された空間とし、ユニバーサル化に取り組む。
- 盗難・傷害・不審者などの犯罪が起こりにくい環境を整備するため、建物内外での防犯カメラの整備、死角を減らしていく取り組みを実施する。
- 防犯上必要な照度を確保しつつ、デザインを揃えた外灯を設置する。
- 災害時防災拠点として機能する領域と教育研究の場としての領域を明確にし、機能保全に配慮する。
- 『新潟大学危機管理計画』『新潟大学事業継続計画（BCP）』に基づき緊急避難場所や避難スペースの確保や機能充実を図る。

6. インフラ整備計画

(1) 計画的な老朽改善整備

- 『インフラ長寿命化計画』に基づき、教育研究活動に不可欠な電力、給排水、ガス、情報通信、空調等を計画的に維持整備する。
- 建物新築時には、インフラ敷設用の共同溝を計画する。
- 電力・給水・情報通信等の敷設は、共同溝を主とし、土中埋設を最小限とする。
- 電力及び情報通信設備の整備では、主幹線の二重化、将来計画を考慮した容量の選定、高速ネットワークの対応ケーブルの採用等を行う。
- 給排水及びガス設備の整備では、耐震性の優れた配管の採用、将来計画を考慮した管サイズの選定等を行う。
- 雨水排水設備については、近年多発している豪雨による北側近隣民地への流れ込みによる浸水被害が発生していることから、今後、調整池等の排水貯留設備の検討を行う。

(2) 災害時の対応

- 『新潟大学危機管理計画』『新潟大学事業継続計画（BCP）』に対応し、災害時やエネルギー等の供給が停止した場合でも、非常用電源や自家発電システムの配備、耐震性に優れた都市ガス導管導入等により、必要最低限の活動が維持できるようインフラ機能のさらなる強化を進める。

(3) スマートキャンパス

- 5G環境を前提とした高速ネットワークやXR（※）、ロボティクス等の活用を可能とし、海外等の離れた場所にいる人々とも、多様な学びの交流が図れるよう、時間と空間を超えた教育・研究活動を推進するために必要なネットワークの超高速化や多数同時接続の実現などが可能となる情報インフラを整備する。
- 遠隔検知などにより、キャンパス内及びキャンパス間におけるリアルタイムな状況把握が行えるように、情報インフラを整備する。

※ XR（クロスリアリティ）：「VR（仮想現実）」「AR（拡張現実）」「MR（複合現実）」といった先端技術の総称

04-3

旭町キャンパス

1. 旭町キャンパスの位置づけ

旭町キャンパスは、都市型キャンパスとして段階的なキャンパス再整備により逼迫している教育研究環境の改善を進めつつ、部局を横断する主軸の形成を念頭に、安全で良好な教育・研究及び医療環境を創出していくことを目指す。

2. ゾーニング

(1) キャンパスの骨格をなす軸線の再定義

キャンパスモールは、各部局をつなぐ主要動線と定義する。

(2) 附属病院の再開発と連動

附属病院の再開発に必要な余白を確保しつつ、土地の有効利用を再検討し、建て詰まりを解消する。

(3) キャンパスの軸線や特性を生かしたゾーニング

- 公道により分断されている保健学科と医学部エリアをペDESTリアンデッキにより一体的空間としてつなぎ、地上レベルを車道、2階デッキフロアを歩道とし、歩車道の立体的分離を図る。
- 各学部、分野間の有機的なつながりを強化するため、将来的に北側アカデミックゾーン（保健学科）と健康スポーツゾーンを入れ替える計画とする。
- 赤門・レンガ堀周辺を新たにメモリアルゾーンとして追加し、魅力ある大学の発信拠点とする。



旭町キャンパス ゾーニング

3. 動線・交通計画

(1) ユニバーサルデザイン

バリアフリーに配慮し、建物用途や障がい者等の利用状況を踏まえて、専用駐車場を設置し、キャンパスモールから各建物の主出入口へ、点字ブロックや音声案内、多言語に対応したサインなどにより誘導可能とする。

(2) 車両動線・歩行者動線

- 歩行者の安全確保のため、歩道を明確に整備し車両との交錯を解消し、快適で魅力的な歩行空間を確保する。交通動線が交錯し危険性の高い箇所（赤門周辺・歯学系周辺等）については、エリア別計画を検討する。
- 附属病院の再開発と連動し、将来的には医学部・附属病院・歯学部を横断する歩行者動線を確保する。

(3) 駐車場・駐輪場

安全で利便性が高くキャンパスの景観に配慮した位置とし、集約化を検討する。将来的には建替え用地を想定しつつ、駐車場の立駐化・高層化を念頭に計画する。

(4) その他

- 校内での交通事故による人命に関わる大事故が発生しないように、ハンプやサイン設置等を充実する。
- 冬季における除雪動線を確保し、排雪場所を設定する。



4. 施設整備計画

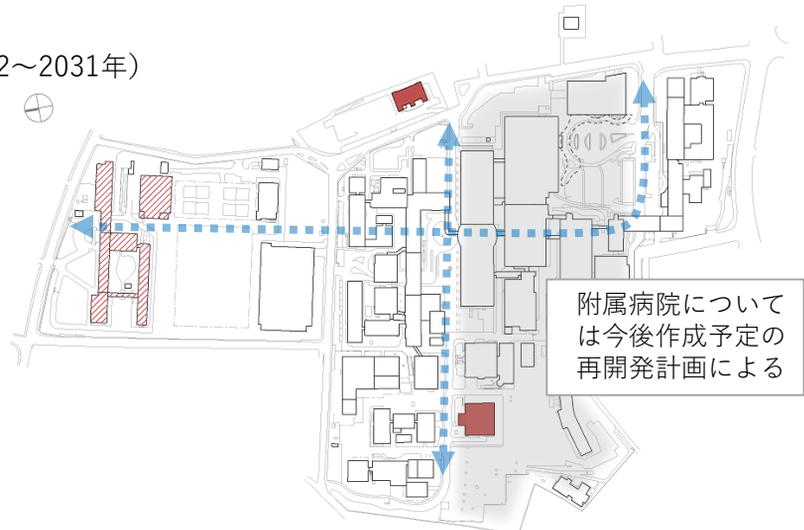
(1) 施設整備の方向性

施設の長寿命化を目指し『インフラ長寿命化計画』に基づいた計画的な改修を行うとともに、施設のトリアージを行いながら、真に大学のビジョン実現のため必要な新增築及び改修を行った場合は、景観に配慮しキャンパスモールを含んだ建物の空間構成などを定めた「キャンパスデザインガイドライン」に沿った計画とする。

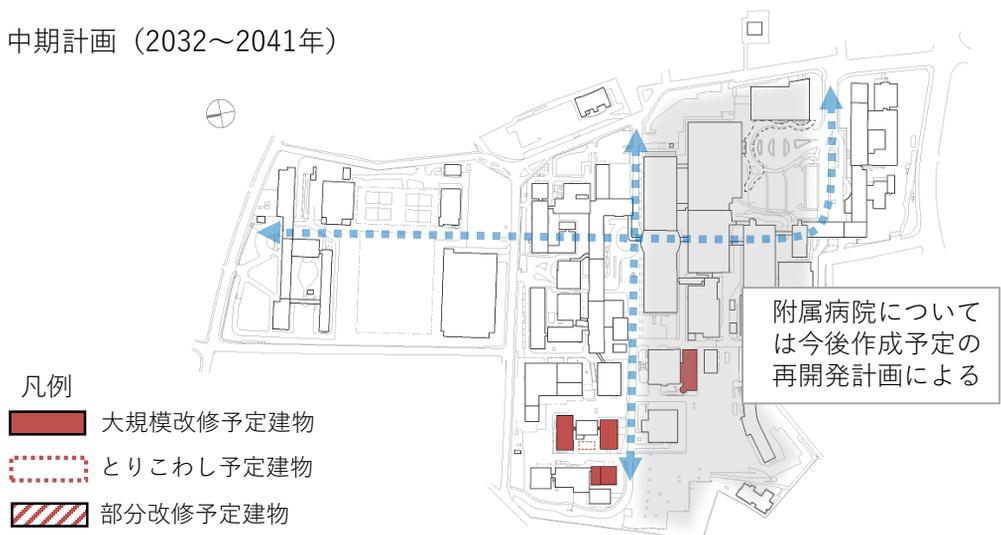
(2) 短期・中期・長期計画

短期計画として、教育研究の多様化・高度化に対応し、新たに必要とされる機能を備えた施設の設置を検討し、長期計画として、将来的な建物の建替え等を踏まえ、集約化や高層化を検討する。

• 短期計画（2022～2031年）



• 中期計画（2032～2041年）

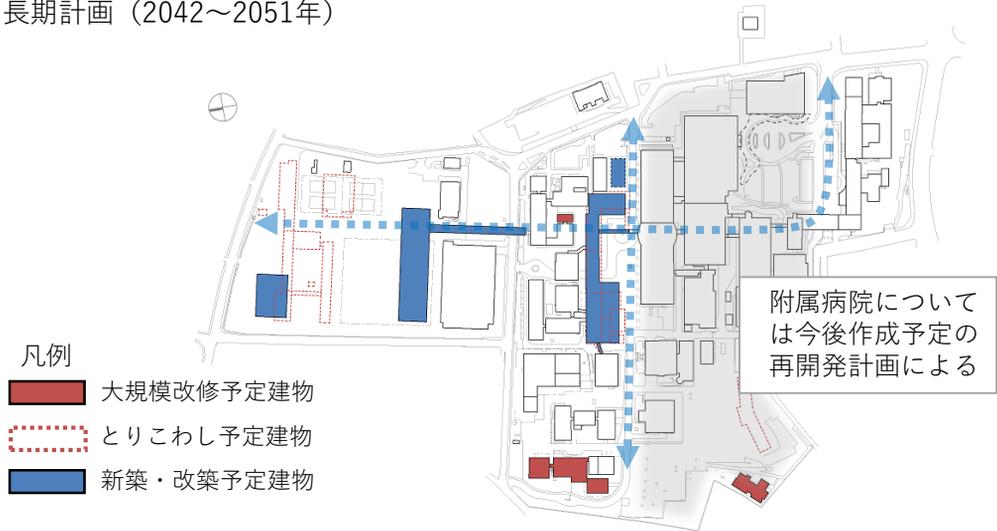


04-3

キャンパスの整備計画

旭町キャンパス

- ・ 長期計画（2042～2051年）



(4) 学生生活の充実

- ・ 有意義で充実した学生生活を送れるよう、学生・教職員のニーズに応じた課外活動施設や福利厚生施設を充実させ、飲食提供の仕組み等を検討する。

(5) ユニバーサルデザイン

- ・ 建物の整備にあたっては、ユニバーサルデザイン関係法令等に従い、ニーズに合わせて必要な機能を整備する。
- ・ ダイバーシティ（多様性）の視点に配慮し、特にトイレ・更衣室等については多目的に利用できるよう計画する。
- ・ エレベーターや多目的トイレ等に関する情報が得られるよう、ウェブ上で位置や設備内容を公開する。

(6) サステイナブルキャンパス

- ・ 地球環境に対する負荷の低減、温室効果ガス排出抑制に努める。
- ・ キャンパスの運用にてサステイナブルな社会のモデルとなる脱炭素キャンパスを目指し、高効率空調機・LED照明・自然換気・昼光利用・人感センサー等を導入する。
- ・ 新增改築や改修にあたっては、費用対効果を考慮した上で、パッシブ技術や再生可能エネルギーの導入によるZEB化や、排熱を回収し蓄エネとして電力・熱を同時供給できる総合効率のよいコージェネレーションシステムの導入等、地域社会の先導モデルとなる施設整備を行う。

(7) 防犯・安全対策

- 防犯面から、個人情報や知財・研究に係る情報等における建物・部屋毎のセキュリティレベルを設定し、全学的に統一した入退室管理などの保護策を導入する。また犯罪・不正行為の抑止力として防犯カメラを適切に配置する。
- 感染症対策として、講義室や演習室等の換気対策、共通手洗い等の自動水栓化、トイレの洋式便器化を行う。
- 『新潟大学危機管理計画』『新潟大学事業継続計画（BCP）』『新潟大学医歯学総合病院事業継続計画（BCP）』に対応し、自治体が行う被害想定に応じた施設整備を行う。
- 建物建て替え時等、将来的には、物資供給等の動線も考慮した災害時に有効な施設配置とする。

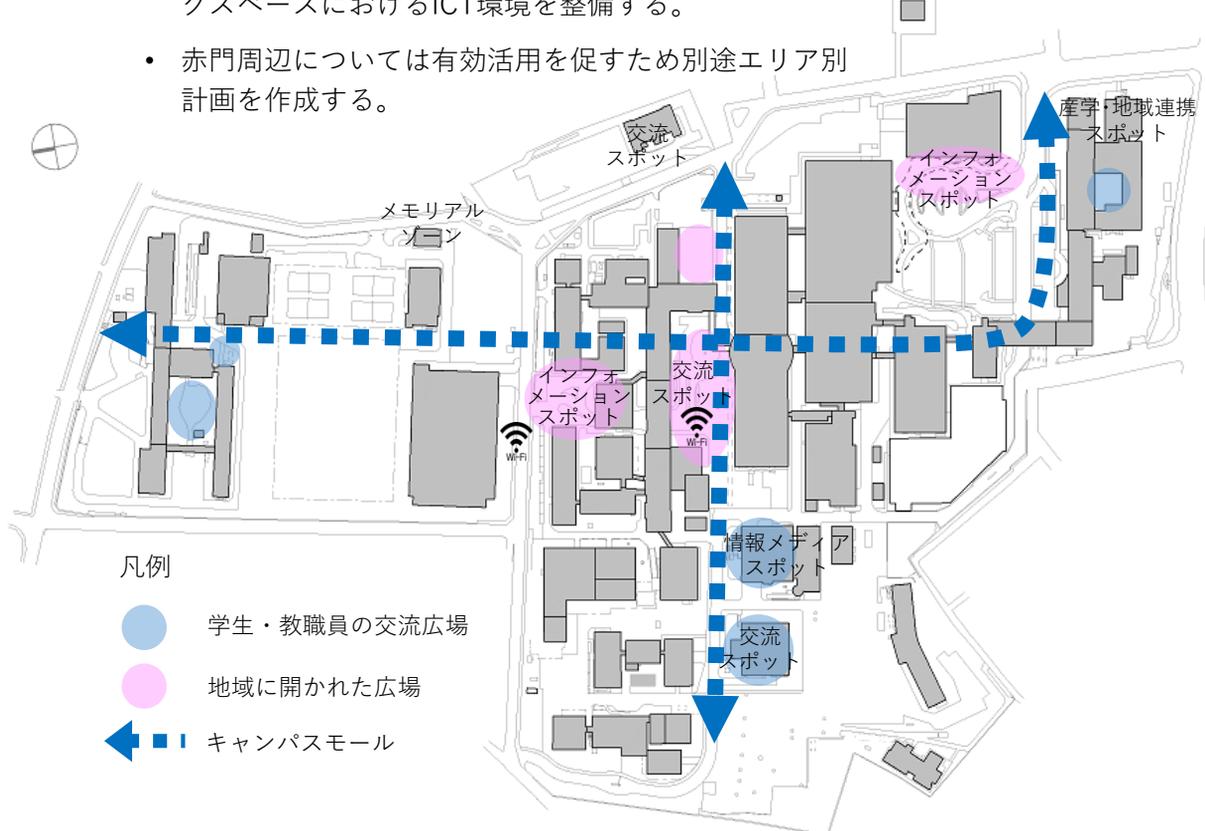
(8) スマートキャンパス

- 全学的なDX推進に伴う、教育・研究活動におけるハイブリッド型学習に対応した講義室等を整備する。
- 利便性と安全性に配慮した全学共通の入退室管理システムを導入する。

5. 屋外環境計画

(1) パブリックスペース計画

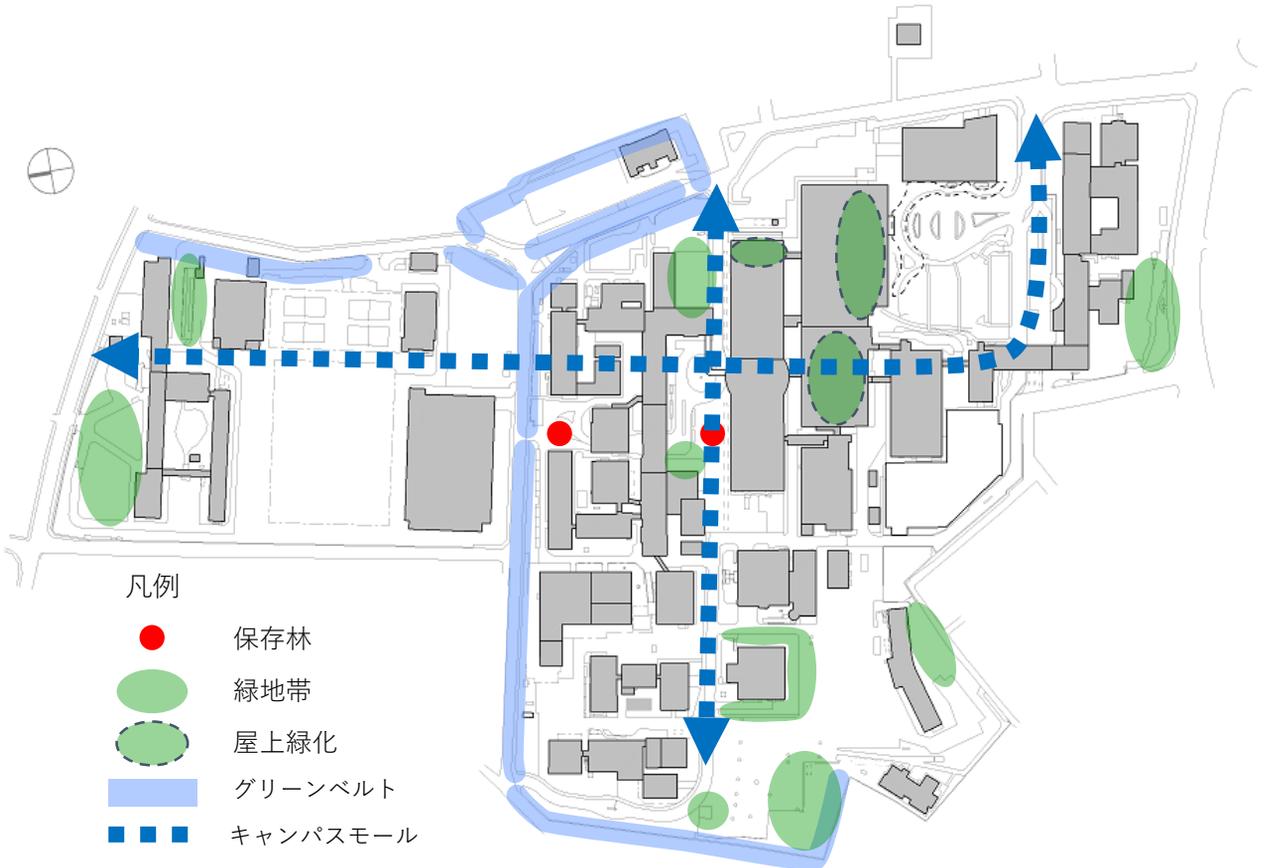
- パブリックスペースは、キャンパスモールとのつながりや屋内外の連続性に配慮し、大学・学部の特徴や活動を地域社会等からも見えるよう計画し、多様な学生・教職員や地域住民との交流を促す多目的なスペースとして有効活用する。
- 学生・教職員の交流広場は、学生生活に潤いを与え交流を生み出すスペース、地域に開かれた広場は、インフォメーション機能を備え、大学の魅力を発信するスペースとして位置付ける。
- パブリックスペースは、Wi-Fi等のDX環境整備によりリアルとバーチャルをつなぎ、植栽やアメニティと併せて計画する。
- 全学的なDX推進に伴う、学生の主体的な学習環境を推進するため、パブリックスペースにおけるICT環境を整備する。
- 赤門周辺については有効活用を促すため別途エリア別計画を作成する。



旭町キャンパス パブリックスペース計画配置図

(2) 緑地計画

- 記念樹はシンボルツリーとして保存し、敷地境界沿いの緑地は隣地との緩衝帯となるグリーンベルトとして管理する。
- 患者の療養効果や落ち着きを視覚的に得るとともに、サステナブル環境の実現を目指し、緑地帯や屋上緑化を整備・維持管理する。



旭町キャンパス 緑地計画配置図

(3) 屋外環境整備

- 屋外環境整備にあたっては、バリアフリー関係法令等に従い、キャンパスモール・植栽等の構成についてはキャンパスデザインガイドラインに沿った計画とする。また、記念碑等の保存についても考慮し、本学の歴史を次世代へ継承する計画とする。
- ICTを活用した情報発信ツール（デジタルサイネージ等）を備えた交流スペースの整備を推進することで、学内だけでなく地域に開放された空間とし、ユニバーサル化に取り組む。
- 盗難・傷害・不審者などの犯罪が起こりにくい環境を整備するため、建物内外での防犯カメラの整備、死角を減らしていく取り組みを実施する。
- 防犯上必要な照度を確保しつつ、デザインを揃えた外灯を設置する。
- 災害時防災拠点として機能する領域と教育研究の場としての領域を明確にし、機能保全に配慮する。
- 『新潟大学危機管理計画』『新潟大学事業継続計画（BCP）』『新潟大学医歯学総合病院事業継続計画（BCP）』に基づき緊急避難場所や避難スペースの確保や機能充実を図る。

6. インフラ整備計画

(1) 計画的な老朽改善整備

- 『インフラ長寿命化計画』に基づき、教育研究活動に不可欠な電力、給排水、ガス、情報通信、空調等を計画的に維持整備する。
- 建物新築時には、インフラ敷設用の共同溝を計画する。
- 電力・給水・情報通信等の敷設は、共同溝を主とし、土中埋設を最小限とする。
- 電力及び情報通信設備の整備では、主幹線の二重化、将来計画を考慮した容量の選定、高速ネットワークの対応ケーブルの採用等を行う。
- 給排水及びガス設備の整備では、耐震性の優れた配管の採用、将来計画を考慮した管サイズの選定等を行う。

(2) 災害時の対応

- 『新潟大学危機管理計画』『新潟大学事業継続計画（BCP）』『新潟大学医歯学総合病院事業継続計画（BCP）』に対応し、災害時やエネルギー等の供給が停止した場合でも、非常用電源や自家発電システムの配備、非常用のトイレ・給水設備等の整備、耐震性に優れた都市ガス導管導入等により、必要最低限の活動が維持できるようインフラ機能のさらなる強化を進める。

(3) スマートキャンパス

- 5G環境を前提とした高速ネットワークやXR、ロボティクス等の活用を可能とし、地域医療や先端医療等の医療活動への対応が可能となるよう、時間と空間を超えた教育・研究活動を推進するために必要なネットワークの超高速化や多数同時接続の実現などが可能となる情報インフラを整備する。
- 遠隔検知などにより、キャンパス内及びキャンパス間におけるリアルタイムな状況把握が行えるように、情報インフラを整備する。

04-4

キャンパスの整備計画

西大畑町キャンパス・長岡キャンパス

1. キャンパスの位置づけ

(1) 西大畑町キャンパス

旭町キャンパスに隣接する西大畑町キャンパスは、日本海と緑に囲まれた自然環境豊かなキャンパスで、附属小学校・中学校・特別支援学校を擁し、早くからICT教育に取り組み、現在その実績をGIGAスクール構想に生かしている。政令指定都市新潟における教員研修中核学校としての機能強化を進めている。

(2) 長岡キャンパス

長岡キャンパスは、長岡駅から約1.2キロの周辺を川や緑に囲まれた自然豊かなキャンパスで、附属幼稚園・小学校・中学校を擁し、GIGAスクール構想を通じたICT教育を推進するとともに、幼児教育からの12年一貫教育カリキュラム開発を通して、新潟県における教員研修中核学校としての機能強化を進めている。



西大畑町キャンパス

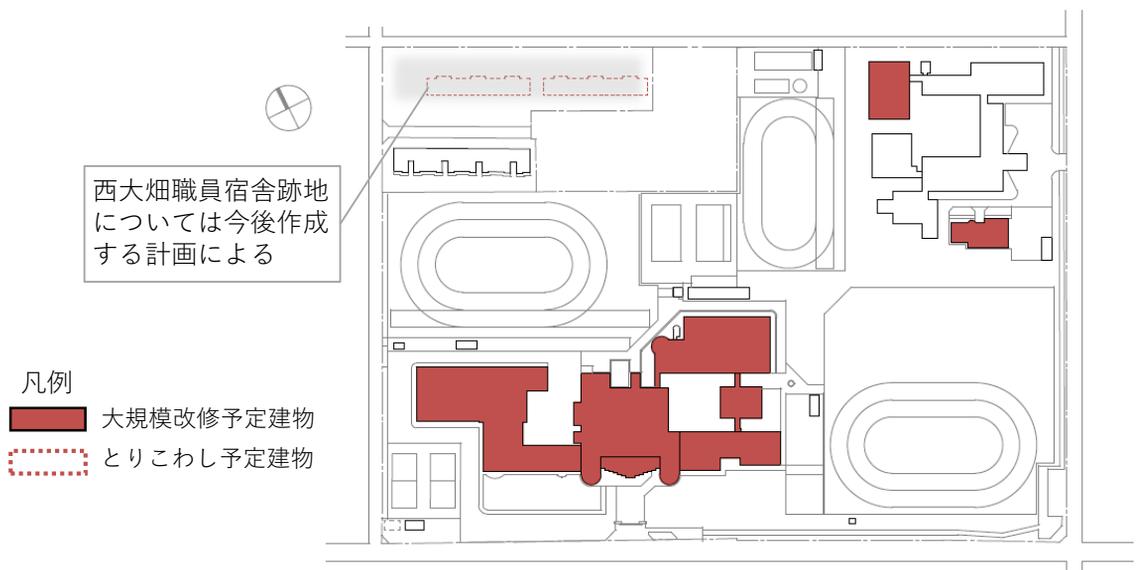


長岡キャンパス

2. 施設整備計画

(1) 西大畑町キャンパスの施設整備の方向性

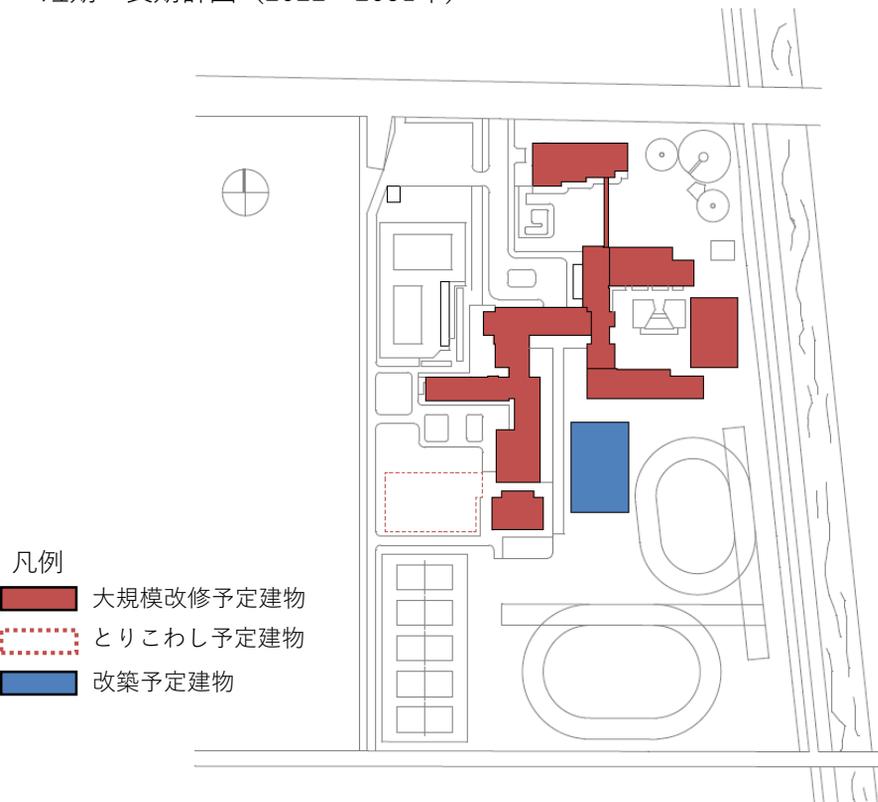
- 施設の長寿命化を目指し『インフラ長寿命化計画』に基づいた計画的な改修を行う。
 - 五十嵐・旭町キャンパスの部局や地域の教育委員会等との連携を促し、先進的な特別支援教育が活性する施設整備を行う。
 - タブレット端末を利用した先進教育を加速するICTを活用した授業実践の場の創出などの施設整備を行う。
 - キャンパス北側の二葉町1丁目1区地区は、新潟市の「都市景観形成地区」に指定されていることから、周辺の景観に配慮した計画とする。
 - 教育研究の多様化・高度化に対応し、将来的な建物の建替えや、建物の高層化、広場の配置等の在り方について検討する。
 - 西大畑職員宿舎跡地は、ニーズ等と把握したうえで跡地の活用について検討する。
- 短期・長期計画（2022～2051年）



西大畑町キャンパス 整備計画配置図

(2) 長岡キャンパスの施設整備の方向性

- 施設の長寿命化を目指し『インフラ長寿命化計画』に基づいた計画的な改修を行う。
 - 幼稚園・小学校・中学校の12年間一貫教育を基盤とした横断的な教育モデルを推進するための施設整備を行う。
 - 長岡市・三条市教育委員会をはじめとする近隣の市町村教育委員会のニーズに応じた教員育成の研修の場を提供する施設整備を行う。
 - 洪水ハザードマップにおいて洪水時危険箇所となっていることから、浸水対策や、冬季積雪への対策を行う。
 - 周囲の景観に配慮した計画とする。
 - 教育研究の多様化・高度化に対応し、将来的な建物の建替えや、建物の高層化、広場の配置等の在り方について検討する。
- 短期・長期計画（2022～2051年）



長岡キャンパス 整備計画配置図

(3) ユニバーサルデザイン

- 建物の整備にあたっては、バリアフリー関係法令等に従い、ニーズに合わせて必要な機能を整備する。
- ダイバーシティ（多様性）の視点に配慮し、特にトイレ・更衣室等については多目的に利用できるよう計画する。

(4) サステイナブルキャンパス

- 地球環境に対する負荷の低減、温室効果ガス排出抑制に努める。
- 学校の運用にてサステイナブルな学校のモデルとなる脱炭素を目指し、学校教育の一環として従来型照明器具とLED照明器具の明るさや使用電力の違いなど、児童・生徒が省エネやカーボンニュートラル等を実感できる学びの場とする。

(5) 防犯・安全対策

- 防犯面から、個人情報や知財・研究に係る情報等における建物・部屋毎のセキュリティレベルを設定し、全学的に統一した入退室管理の導入などの保護策を検討する。また犯罪・不正行為の抑止力として防犯カメラを適切に配置する。
- 『新潟大学危機管理計画』『新潟大学事業継続計画（BCP）』に対応し、自治体が行う被害想定に応じた施設整備を行う。

(6) スマートキャンパス

- 5G環境を前提とした高速ネットワークを可能とする、時間と空間を超えた教育・研究活動を推進するために必要な情報インフラの整備を行う。
- 遠隔検知などにより、キャンパス間におけるリアルタイムな状況把握が行えるように、情報インフラの整備を行う。
- 学内の教育・研究活動、事務部門のDX化に向けて、安心安全なICT環境を維持するためのサイバーセキュリティ対策の強化に取り組む。

(7) インフラ整備計画

- 『インフラ長寿命化計画』に基づき、教育研究活動に不可欠な電力、ガス、通信・情報、給排水、空調等を計画的に維持整備する。
- 災害時においても、教育・研究活動に支障が出ないような情報ケーブルの複線化など、情報インフラの二重化やバックアップ機能の充実化を図る。

1. 新潟大学のブランディングデザイン

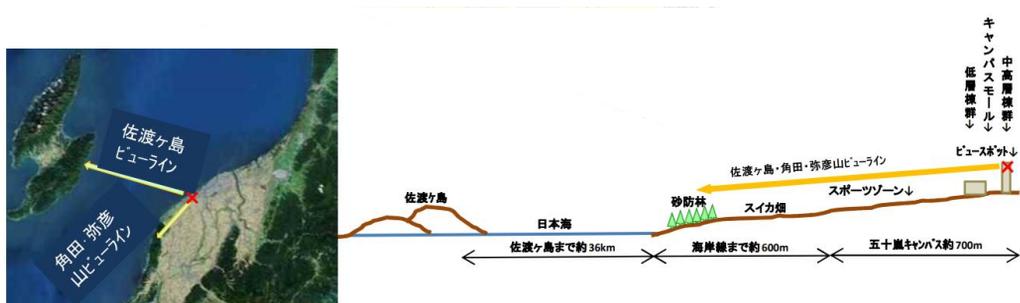
大学の歴史や建築的資産を継承するとともに、開かれたキャンパスとして魅力的でわかりやすい空間構成や誘導サインについて、統一感のあるデザインを目指すための、原則的な考え方を以下に示す。

なお、建物のファサード、路面を含む素材や色彩等の統一性については、今後の建物の建て替え時期等を見据えながら検討していくこととする。

2. 五十嵐キャンパスのデザインガイドライン

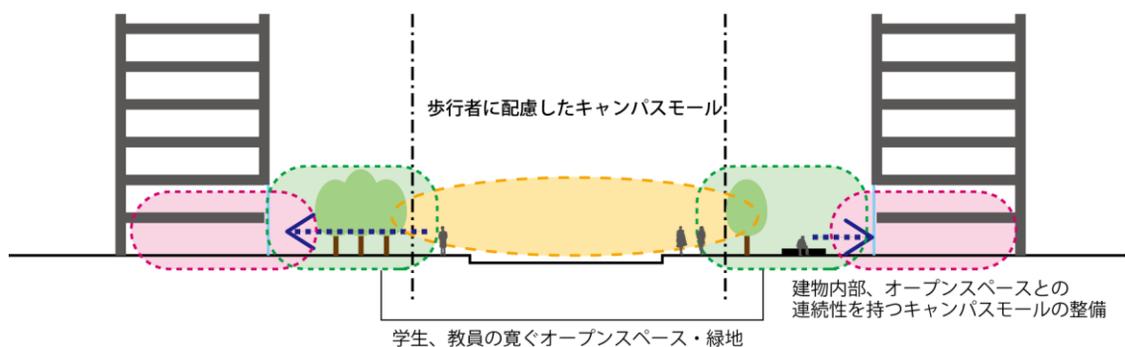
(1) 周辺環境と眺望に配慮したボリュームデザイン

建物高さは、キャンパス外周部は周辺環境に配慮し中・低層とし、キャンパスモール中心部を高層化する。その際、日本海の眺望を阻害しないような計画とする。



(2) 学生・教職員の活動を発信するキャンパスモールとの連続的な環境整備

学生・教職員がくつろげるオープンスペース・緑地などを設け、キャンパスモールとの連続性を考慮した建物エントランス、アプローチとする。新潟大学で学ぶ学生、教育・研究を行う教職員の姿・活動を発信し、学修意欲の向上、共創の機会となる空間を建物の低層部に計画する。



04-5

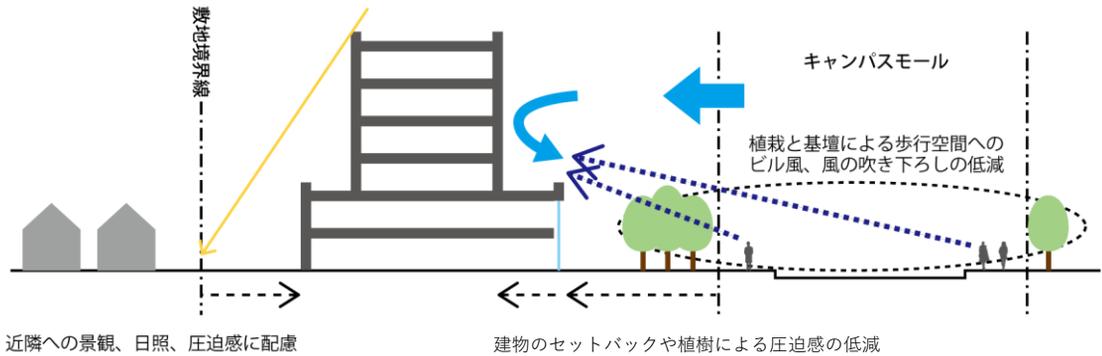
キャンパスの整備計画

キャンパスデザイン

(3) 統一感・利用者に配慮した建物・環境

周辺環境を考慮した調和のとれた計画とする。基壇部の設定や植樹などによって、圧迫感を与えないヒューマンスケール等を考慮した建物形状とする。また、敷地境界付近の建物に関しては、近隣への景観、日照、圧迫感に配慮する。

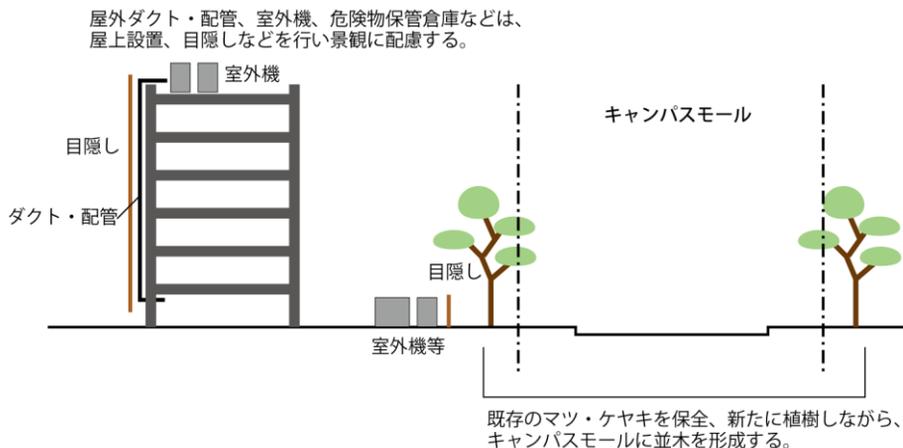
建物の外観は、アースカラーを基調として統一感を与える。



(4) キャンパスの特徴を活かした景観

歴史的景観、自然景観に配慮した外観、建物周辺環境とする。既存樹木（マツ、ケヤキ、サクラなど）を活かしたキャンパスモールとする。

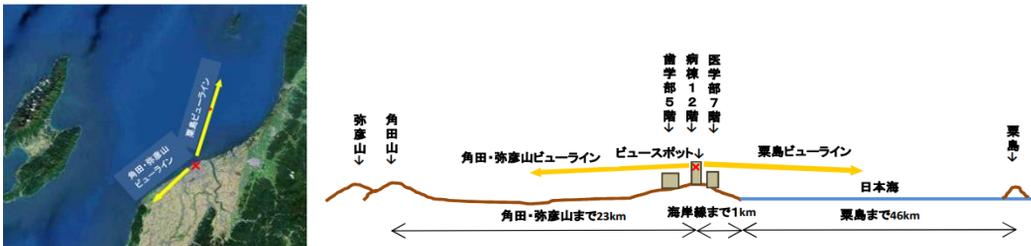
屋外ダクト・配管、室外機、危険物の屋外保管庫などは、屋上への設置、植樹やルーバーによる目隠しなどで、歩行者の安全、周辺道路への景観に配慮する。



3. 旭町キャンパスのデザインガイドライン

(1) 周辺環境と眺望に配慮したボリュームデザイン

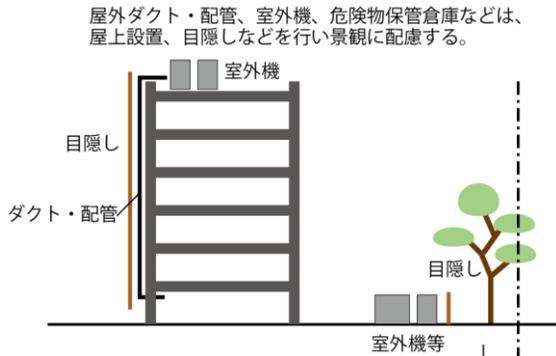
キャンパス敷地の高度利用化が必要な旭町キャンパスは、全般的に建物高さは、高層化を目指す。キャンパス外周部は周辺環境に配慮しつつキャンパス中心部（現病棟）からの眺望を阻害しないような計画とする。



(2) キャンパスの特徴を活かした景観

歴史的景観、自然景観に配慮した外観、建物周辺環境とする。保存樹木（クロマツ、ヒポクラテス）を活かしたパブリックスペースを形成する。

屋外ダクト・配管、室外機、危険物の屋外保管庫などは、屋上への設置、植樹やルーバーによる目隠しなどで、歩行者の安全、周辺道路への景観に配慮する。

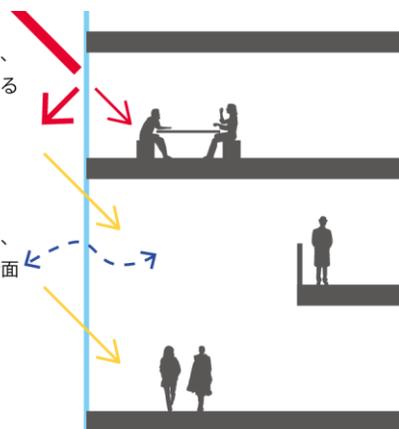


4. 環境負荷低減に配慮したデザイン

建物の消費エネルギーを抑制するため、開口部での日射負荷低減（Low-E複層ガラス、西側に縦ルーバーなど）、自然採光や自然通風の確保、断熱性能の向上による熱負荷低減が行える建物性能・形状とする。

Low-E 複層ガラス、ルーバーなどによる熱負荷の低減

自然通風・採光に、配慮した平面・断面



5. サインデザインマニュアル

キャンパス全体のサイン計画は、秩序だった配置システム・統一的なデザインによる構内の美観形成とわかりやすく的確な誘導・案内情報の提供を目的とし、施設環境委員会で定めた「サインデザインマニュアル」を随時更新していく。

「新潟大学 サインデザインマニュアル」(2010年3月策定)

コントラスト色彩

サインに使用する色彩は、大学構内の複雑な空間把握をサポートすることを目的とする。広い外構空間と、各施設間の移動をスムーズに行うために各機能カラーを設定し、アクセントカラーとすることでわかりやすく理解しやすい案内・誘導を行う。

施設カラー

- 人文社会・教育科学系カラー 
concept * 人文社会・教育科学系としての成長、人間性をイメージさせる緑系
- 人文学部
 - 教育学部
 - 法学部
 - 経済学部
- 自然科学系カラー 
concept * 自然科学系としての生産、技術、進歩をイメージさせる赤系
- 理学部
 - 工学部
 - 農学部
- 医歯学系カラー 
concept * 医歯学系としての生命をイメージさせる青系
- 医学部
 - 歯学部
- 福利厚生系カラー 
concept * 福利厚生系としての楽しさ、活発さをイメージさせるオレンジ系
- スポーツ施設/食堂
- 共通施設系カラー 
concept * 共通施設系としての優雅さ、落ち着きをイメージさせる紫系
- 大会会館/事務局/図書館/宿舎等
- 予備学系カラー 


ベースカラー

大学の若々しさ、希望、発展をイメージする薄い緑系の色彩とした。

04-5

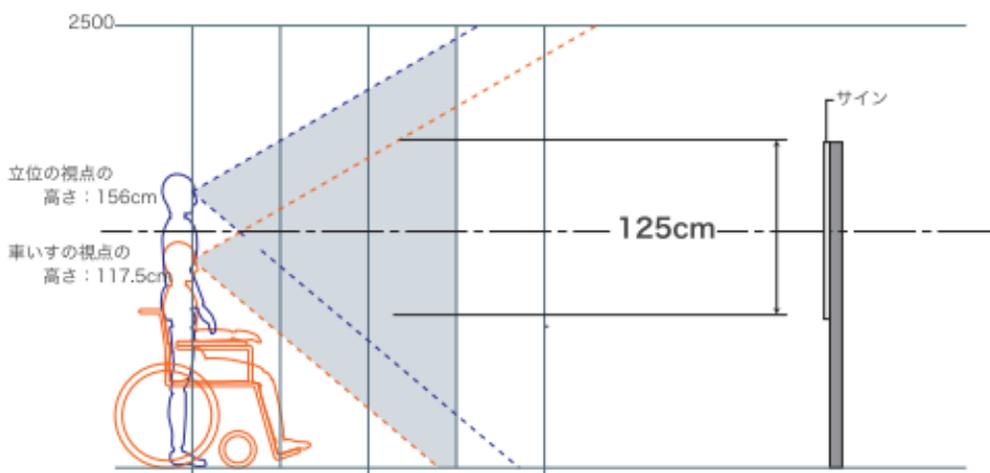
キャンパスの整備計画

キャンパスデザイン

表示面の掲出高さ

サインの表示は、高齢者や車椅子使用者を含めた歩行者が利用するものであるため、共通して見やすい高さに設定する必要がある。

掲出高さとしては「立位の利用者と車いす使用者が共通に見やすい範囲である約135cm」が考えられるが、車いす使用者に対するアンケートによる「もっと下に設置して欲しい」「上部が見づらい」といった意見を考慮し「地図の中心高さ125cm」を基本とする。



必要な文字の大きさ

利用者の両眼矯正視力0.5を想定し各標識の視距離から判読するために必要な文字の大きさを下記の表から地図表示は和文0.9cm以上、英文0.7cm以上とし誘導表示は和文4cm以上、英文3cm以上とする。(両眼矯正視力0.5：これにより一人で出歩ける高齢者の大半を対象にすることが出来る)

視距離	和文文字高	英文文字高	
30mの場合	12cm以上	9cm以上	
20mの場合	8cm以上	6cm以上	
10mの場合	4cm以上	3cm以上	→誘導表示の文字高
4~5mの場合	2cm以上	1.5cm以上	
1~2mの場合	0.9cm以上	0.7cm以上	→地図表示の文字高

04-5

キャンパスの整備計画

キャンパスデザイン

コントラスト

情報内容が見やすく読みやすくなるよう表示内容の明度差を一定以上に保つ必要がある。少なくとも5段階以上の明度差を確保する。



無彩色地色：白文字の場合の可視性（文字を N9.5 に設定）



無彩色地色：黒文字の場合の可視性（文字を N1 に設定）

色の組み合わせ

■高齢者への配慮

高齢者の眼は「物が黄色みを帯びた見え方をするため、「青と黒」「黄色と白」の組み合わせは用いない。

■色覚異常者への配慮

表示要素ごとの明度差を確保するとともに「赤と緑」の組み合わせは用いない。

表示面に使用する色、特に地図系に用いる色は色数が増えることもあり「コントラスト」「色の組み合わせ」が難しい場合が出てくることも考えられる。このような場合はケイ線（白又は黒）等を用い色の境がわかるような処理をする。

（参考：地図を用いた道路案内標識ガイドブック／監修 国土交通省 道路局企画課）

04-5

キャンパスの整備計画

キャンパスデザイン



総合案内サイン



誘導サイン



棟名記名サイン

壁付け



棟名記名サイン

自立



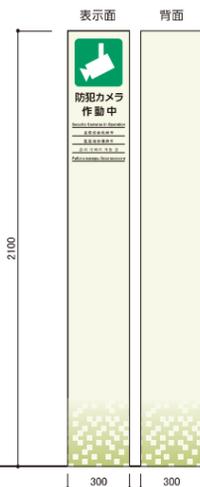
駐車場サイン



規制サイン



一時ひなん場所サイン



注意喚起看板 A



注意喚起看板 B



注意喚起看板 C

1. 施設マネジメントの概念

クオリティマネジメント

(施設の質の管理)

施設利用者の要望に配慮しつつ、安全及び教育研究等の諸活動を支援する機能等を確保し、施設の質の向上を図る

スペースマネジメント

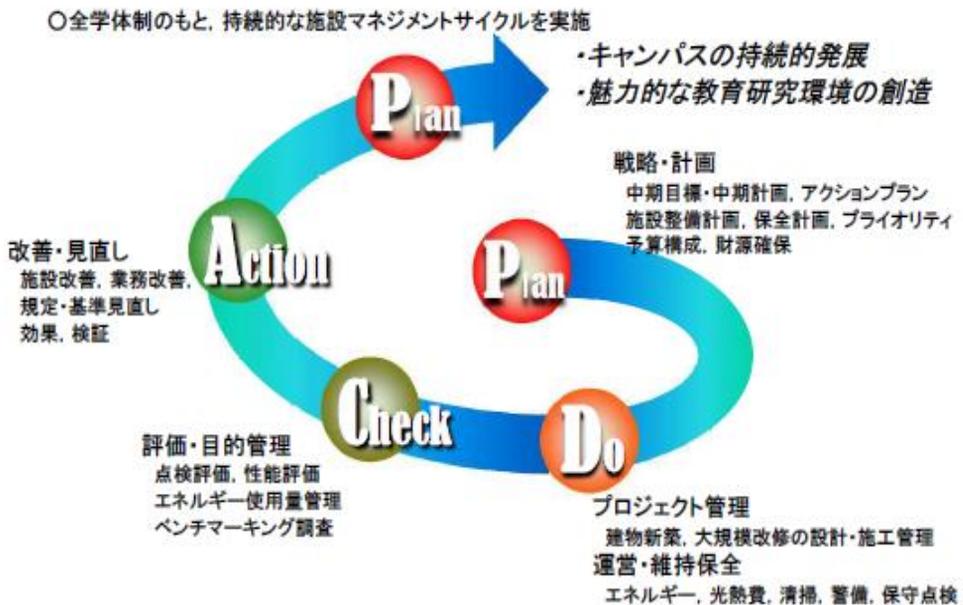
(施設の運用管理)

全学的にスペースを管理し、目的・用途に応じた施設の需給度合い、利用度等を踏まえて、適切に配分するなどし、施設を有効に活用する

コストマネジメント

(施設に係るコスト管理)

クオリティ及びスペースの確保・活用に要する費用を管理し、大学経営の視点から、費用対効果の向上、資産価値の維持を図る



全学的な観点による施設マネジメントを推進するため、インフラ長寿命化計画に基づき、概算要求や部位別更新を行う。また、建物の長寿命化に必要な改修費や維持管理費の財源を安定的に確保する。

2. クオリティマネジメント

- キャンパス全体がいつまでも快適に利用できるよう、点検評価を行い改善を図るため、関連する専門教員や施設担当職員を中心とした管理体制を構築する。
- 学生ボランティアや地域住民等との協力体制を活かし、パブリックスペースを積極的に活用し交流を推進する取り組みを行う。
- キャンパス全体を実証の場として活用するため、ICT環境を利用した様々なアプリケーションの導入を検討する。
- 学内の教育・研究活動、学生サービス及び事務部門のDX化に向けて、安心安全なICT環境を維持するためのサイバーセキュリティ対策の強化に取り組む。
- データの遠隔地バックアップや災害用HPの立ち上げなど、災害や危機時案が顕在化した際の情報管理・発信に係る機能の充実を図る。
- キャンパスの安全確保のため、化学物質・核物質等の研究用危険物管理における法令遵守を確実にするため、スペースチャージの運用と合わせ関係する研究室・実験室の戦略的なりロケーションを含めた配置計画を検討する。
- エネルギーの削減や脱炭素社会について、地域住民、学生への啓発手法や教育についての仕組み作りを推進する。
- 本学が学外で行った実践研究やプロジェクトで得た省エネルギーや省CO₂の成果を、本学の成果として公表することを推進する。

3. スペースマネジメント

- 部局の面積における学系間の不均衡の是正を図るため、学内の基準（平均保有率）を設定し、その基準を超えた面積にスペースチャージをかけるスペースチャージ制度を導入する。
- 施設の有効活用や学長主導で目指す方向性に沿った教育研究活動を推進するため、全学共用スペースを本部で統一的に運用を行うスペースとする。
- 施設の有効活用の促進を図る目的から、すべての施設について、書面及び実地による施設の点検調査を毎年実施する。
- 限りある大学施設の最大化を図るため、講義室や全学共用スペースの活用状況の見える化に取り組む。

4. コストマネジメント

- インフラ長寿命化計画（個別施設計画）及び（部位別更新計画）に基づき、施設整備費概算要求や計画的な整備を行う。
- 寄附金や他省庁の補助金などの多様な財源の活用、及びPPP/PFIなどの多様な整備手法による施設整備を推進する。
- スペースチャージ使用料及び全学共用スペース施設利用料を、全学共用スペースの維持管理費に充てるほか、インフラ長寿命化計画の施設整備に対応した経費に充てる。
- エネルギー効率の高い快適な教育研究環境を目指す。
- 自然エネルギーの導入拡大に向け整備の拡充を推進する。
- 再生可能エネルギーや、排熱など捨てられるエネルギーの有効活用を推進する。
- カーボンニュートラル・キャンパスを目指すため、さまざまな環境に関するデータをデジタル化し常時収集できるように、情報インフラの整備を推進し、省エネ化を促進する。
- CO2削減の取り組みを推進するため、省エネルギー対策と同様に削減目標を掲げ、計画的に削減を行う。
- 将来的なスマートキャンパスの実現に向け、ICT環境を活用し、全学的なエネルギーマネジメントの推進に取り組む。

参考資料

1. キャンパスマスタープラン2022検討ワーキンググループメンバー一覧

• 施設環境委員会施設整備推進専門委員会（2021年度）

○理事（財務・社会連携担当）	川端 和重	委員長
副学長（社会連携担当）	阿部 和久	フレームワークWG座長
副学長（学務担当）	福島 治	ユニバーサルデザインWG座長
副学長（学生支援・就職支援担当）	箕口 秀夫	レジリエンスキャンパスWG座長
人文社会科学系教授	横山 知行	
人文社会科学系教授	上村 都	エコ環境WG副座長
自然科学系教授	権田 豊	
自然科学系教授	鈴木 敏夫	
医歯学系教授	西條 康夫	フレームワークWG副座長
医歯学系教授	佐伯 万騎男	エコ環境WG座長
医歯学系教授	寺尾 豊	フレームワークWG
附属図書館長・教授	小島 秀雄	デジタル環境WG座長
施設管理部長	外山 渉	フレームワークWG

• フレームワークWG

人文社会科学系教授	丹治 嘉彦
自然科学系教授	岡崎 篤行
自然科学系准教授	村上 拓彦
自然科学系助教	棒田 恵
人文社会科学系事務部長	高杉 浩文
医歯学系事務部長	小海 松男

• ユニバーサルデザインWG

自然科学系准教授	松井 大輔	副座長
自然科学系教授	渡辺 哲也	
学務部学生支援課長	降旗 輝彦	
施設管理部特命課長	荻原 正暢	
医歯学系事務部総務課長	土田 秀樹	

• デジタル環境WG

ビッグデータセンター長・教授	山崎 達也	副座長
自然科学系教授	村松 正吾	
学術情報部情報企画課長	石田 修	
施設管理部施設管理課長	池口 敏夫	
医歯学総合病院経営企画課長	小林 晴男	

参考資料

- エコ環境WG

自然科学系教授	増田 淳
自然科学系助教	有波 裕貴
研究企画推進部産学連携課長	松岡 琢磨
施設管理部施設保全課長	永野 太
医歯学総合病院管理運営課長	雲崎 雄次

- レジリエンスキャンパスWG

危機管理センター長・教授	田村 圭子	副座長
自然科学系准教授	東瀬 朗	
総務部総務課長	山田 尚彦	
施設管理部施設整備課長	深澤 良昭	
医歯学総合病院総務課長	島田 彰	

- 調査・協力

自然科学系博士後期課程	呉 焱寒
自然科学系博士後期課程	甲賀 達郎
自然科学系博士前期課程	古市 真広
自然科学系博士前期課程	山本 駿介
自然科学系博士前期課程	Orkhontuul SANDAGSUREN
自然科学系博士前期課程	川上 陸

- 事務局

施設管理部施設管理課副課長	吉澤 健
施設管理部施設保全課副課長	安達 雄治
施設管理部施設整備課副課長	五十嵐 誠
施設管理部施設管理課係長	山崎 サチエ
施設管理部施設管理課主任	堀 智貴

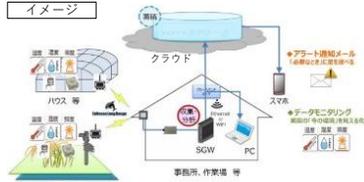
2. 検討経緯

2021年 7月 1日	施設整備推進専門委員会（2016見直しに係る体制について）
2021年 7月 9日	施設環境委員会（2016見直しに係る体制について）
2021年11月15日	施設整備推進専門委員会（中間報告）
2021年11月26日	施設環境委員会（中間報告）
2022年 2月24日	施設整備推進専門委員会
2022年 3月11日	施設環境委員会
2022年 3月18日	経営協議会
2022年 3月24日	役員会

参考資料



健康スポーツゾーン周辺交流スポットにパブリックビューイングの整備



スマートメーター等を活用した光熱量の測定・管理



無人航空機等を活用した遠隔検知など新たな情報ネットワークの構築

【インフラ】ICTを活用し、さまざまな環境に関するデータ収集が可能な情報インフラの整備を推進

【施設マネジメント】光熱水計測データ等を研究で活用できる仕組みを推進

【施設整備】ハイブリッド型学習等による利用状況に応じたフレキシブルな講義室や演習室等の整備



ローカル5.Gの開発実証

【施設マネジメント】キャンパス全体を実証の場として活用するためのICT環境の整備



【屋外環境】西門周辺においてICTを活用した情報発信ツール（多言語配音可能な音声誘導サインなど）を備えた交流スペースの整備



ICTを活用した多言語サービス

【施設整備】ICチップ等を活用し、エネルギー消費量のリアルタイム表示や蓄積データ公開による創エネ推進、講義室等の入退室管理システムやデジタル認証の導入について検討



(アプリを活用したデータ収集)



(大型ディスプレイを活用した利用状況発信)

蓄積データや施設利用状況の「見える化」

【屋外環境】主体的な学習環境を推進するため、建物内部との連続性に配慮した交流スポットにおけるICT環境の整備

【インフラ】キャンパス内及びキャンパス間におけるリアルタイムな情報管理や発信が可能な情報インフラの整備



VR等を活用した新たな学習に対応する整備

【インフラ】DX基盤及び情報セキュリティ基盤等を構築するために必要な情報インフラの整備



インフォメーションスポット



デジタルサイネージを活用した情報発信ツール

【屋外環境】ICTを活用した情報発信ツール（デジタルサイネージ）を備えた「インフォメーションセンター」の整備



ICTを活用したデータの遠隔地バックアップや災害・危機事案発生時の情報管理・発信の充実

参考資料



旭町キャンパスにおけるスマートキャンパス化（イメージ）

新潟大学 キャンパスマスタープラン 2022

NIIGATA UNIV CAMPUS MASTER PLAN 2022

あとがき



財務・社会連携
担当理事

川端 和重

新潟大学キャンパスマスタープランは、本学の教職員、学生さらにはこの場を利用する地域社会の皆様にとって魅力的で、自慢したくなるようなキャンパスに生まれかわるためのものです。少し時間がかかる部分もありますが、着実に進めるために、第4期中期目標期間（2022～28）の開始にあたり改定しました。このプラン改定を検討するにあたっては、多くの教職員・学生の方々に参画していただき、現状の課題をもとに未来に向けた思いと知恵を集めて作り上げていただきました。これは単なる施設整備計画ではなく、施設を活用し実行するための施設マネジメントも組み込んでいます。

今後は、新たなプランを基にしたアクションプランによって具体化を進めます。その一環として、令和4年度からは全学的なスペースマネジメントをスタートします。施設の長寿命化を進め、さらには社会に開かれたキャンパス構築の第一弾として、全国に先駆けて「新潟大学イノベーションコモンズ」を人文社会系エリアの大規模改修にあわせて創出します。同様にキャンパス全体のイノベーションコモン化を目指し、新たな取り組みを学内予算だけでなく外部資金の活用も視野に入れて進めますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

科学・技術のみならずSDGs等、社会環境は急速に発展します。次世代のための未来型キャンパスについて、是非ご意見やご提案をお寄せください。

新潟大学キャンパスマスタープラン2022

国立大学法人新潟大学

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地

TEL 025(262)6065/FAX 025(262)6068

e-mail kikakuka@adm.niigata-u.ac.jp